

千葉県版チームオレンジ活動事例集



千葉県マスコットキャラクター
「チーバくん」

令和6年2月

千葉県健康福祉部高齢者福祉課

目次

設置市町村	4
様式概要	5
千葉市 1	9
千葉市 2	12
千葉市 3	15
千葉市 4	18
千葉市 5	22
千葉市 6	25
船橋市 1	28
船橋市 2	33
木更津市 1	36
木更津市 2	39
木更津市 3	42
松戸市 1	46
松戸市 2	49
松戸市 3	51
佐倉市	54
旭市	58

柏市	61
鎌ヶ谷市	64
富津市 1	68
富津市 2	70
浦安市	72
四街道市 1	75
四街道市 2	78
四街道市 3	80
印西市 1	83
印西市 2	85
白井市	87
富里市	89
匝瑳市	91
香取市	94
山武市	97
大網白里市	100
芝山町	103

チームオレンジ設置市町村

※当事例集掲載市町村を表示しています



〇〇市

チーム名 【 】
タイトル 【 】

タイトルは、チームの活動や特徴を一言でまとめたものを記載しています。

1 自治体情報（令和〇年〇月〇日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
人	人	%	K m ²
〇〇市(〇〇町)は こんなところ！	自治体のプロフィールを記載しています。		

2 活動の概要

開始時期	
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	
活動頻度	
参加費	
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	
チームオレンジ コーディネーターの属性	
チームオレンジの種類 ※ 1	<input type="checkbox"/> 第 1 類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第 2 類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第 3 類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※ 2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

チームオレンジを結成した際の流れ（地域課題の状況、問題意識、きっかけ、関係機関への働きかけや調整、チームオレンジコーディネーターの役割、チームオレンジの元となる活動や取組等）と現在までの経過を記載しています。

4 活動内容

活動の内容について、写真や図なども使用しながら記載しています。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

認知症サポーターへの働きかけ、活動が軌道に乗るまでの流れ、認知症の人本人や地域の人へどう活動を広めていったか広報の方法など記載しています。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

講座時間や開催場所、講義の内容、講師の属性などを記載しています。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

<課題>

8 チームのアピールポイント

9 今後の活動について

※1 チームオレンジの種類について

チームオレンジは、地域特性を鑑みて、以下の特徴的な3種類を参考に立ち上げます。
なお、自治体で数カ所立ち上げる場合、同一種類にする必要はありません。

(全国キャラバン・メイト連絡協議会発行「コーディネーター研修テキスト認知症サポーターチームオレンジ運営の手引き」から抜粋)

第1種類【共生志向の標準タイプ】地域の交流拠点（より所）を設置
<ul style="list-style-type: none">・サポーター等の活動の拠点であると共に、認知症の人と家族などが、いつでも訪れたいことができる普段からのより所とします。認知症の人の社会参加へのハードルが低くなります。・共に集うことにより、サポーターと認知症の人との「顔見知り」「なじみの関係」が成り立ちやすく、認知症状の変化や、困りごと等のマッチングと支援の迅速な対応が可能です。拠点は集まりやすい立地を選ぶことが重要です。・コーディネーターは、チームオレンジ立ち上げ後は、チームのスーパーバイザー的役割での参加となります。・サポーター以外（サポーター予備員）の多様な人々の参加を前提とする地域共生拠点への展望が望めます。
第2種類：【既存拠点活用タイプ】（既にある拠点の活用）
<ul style="list-style-type: none">・既に拠点がある「まちなかサロン」や「認知症カフェ」「介護予防教室」などをチームオレンジとして活用する方法です。・拠点の設置者や運営が介護事業者等の法人の場合は、住民サポーター主体の運営へシフトさせ、法人との協力関係の整理の必要があります。 この場合、まず、チームオレンジの三つの基本の整備から始めます。介護事業従事者はつながりの職域サポーターとして、あるいは住民サポーター（ステップアップ講座修了）として、法人は連携する関連機関として活動することなどの整理が必要になります。・既にサポーター主体で運営されているサロン等に関しては、チームオレンジ〇〇サロンへ移行できます。この場合であっても、サポーターのステップアップ講座修了と三つの基本の整備は必要です。・既存の活動とチームオレンジの活動を並行して行う場合の整理として、既存の活動をチームオレンジのメニューとして存続させる方法があります。
第3種類：【拠点を設置しない個別支援型タイプ】
<ul style="list-style-type: none">・活動拠点が確保できない場合にも実施できる方法です。・既存のサロンや認知症カフェなどへチームメンバーが訪問し、活動・支援することも考えられます。・集う拠がないため、認知症の人の社会参加の機会が少なくなります。・サポーターや認知症の人、家族等との交流の機会が少ないため、困りごと支援のマッチングのための情報収集と調整に時間と手間が生じる可能性があります。・チームメンバー同士のコミュニケーションがとりづらいため、LINE やメール等を活用した運営が望めます。・かつての「やすらぎ支援員」制度に類似しています。・チームリーダーの力量が求められ、チームオレンジ運営の難易度は高いと思われます

※2 チームオレンジ三つの基本について

(全国キャラバン・メイト連絡協議会発行「チームオレンジコーディネーター研修テキスト 認知症サポーター運営の手引き」から抜粋)

- ①ステップアップ講座修了及び予定のサポーターでチームが組まれている
- ②認知症の人もチームの一員として参加している（認知症の人の社会参加）
- ③認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援ができる。

千葉市①

チーム名 【 ほっとくるカフェ 】
タイトル 【 自分の思いや気持ちを素直に話せる場 】

1 自治体情報（令和5年12月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
978,899人	257,467人	23.6%	271.78K m ²
千葉市(美浜区)は こんなところ！ 人口：152,816人 高齢化率：26.5%	<p>千葉市美浜区は千葉市の西側に位置し、区の全域が埋立てにより造成された地域です。千葉市の6区のなかでは最も小さい区で、計画的に街づくりが進められています。</p> <p>区内には幕張メッセや千葉ロッテマリーンズのスタジアム、サッカー日本代表のトレーニング拠点である「夢フィールド」などがあり、身近なところでイベントやスポーツ観戦を楽しめます。</p> <p>地域包括支援センターは4ヶ所+1出張所、認知症カフェは7ヶ所です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和3年11月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（）
活動内容	認知症カフェ（茶話会・外出）
活動頻度	月2回（第2・4火曜日）
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（外出時は自己負担） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（外出時は自己負担）
メンバー構成	代表：認知症サポーターステップアップ講座修了者2名 ○若年性認知症当事者1名 ○認知症サポーターステップアップ講座修了者 代表の他2名～ ○民生委員 ○介護者家族 ○千葉市あんしんケアセンター（地域包括支援センター） ○生活支援コーディネーター磯辺圏域
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター （認知症地域支援推進員兼務）

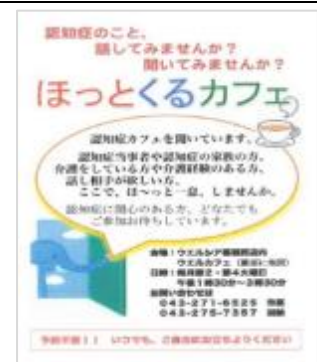
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和3年9月、新たに出来る地域交流スペースの情報が生活支援コーディネーターに入り、スペース活用の説明会に認知症サポーターステップアップ講座修了者を呼んだことがきっかけで、生活支援コーディネーター、修了者、行政職員とで交流会を行う。

交流会の中で、修了者から「介護者が孤立しない居場所をつくりたい」「認知症の人も活躍できる場をつくりたい」との声があり、同年11月に認知症カフェを立ち上げることになった。

4 活動内容



- ・認知症のこと、自分の近況や想い、地域のことなど、何でも自由に話し、それをお互いに聞き合う。
- ・出かけてみたいところがあったら、相談して計画を立て出かけてみる。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

(1) 認知症サポーターへの働きかけ

行政から認知症サポーターステップアップ講座修了者名簿の情報提供を受け、修了者に声かけを行った。

認知症カフェを作ることを目的に修了者との交流会を開催したのではなく、修了生のやりたいことを大切に、自発的に意欲をもって取り組んでもらえるようにした。

(2) 広報の方法

現在のメンバーは参加者が近所の方や知人を連れて集まった。

そのほか、チラシの配布や千葉市認知症カフェ一覧・千葉市認知症ナビへの掲載、口コミでの広報を行っている。

〈ほっとくるカフェの代表・副代表が大切にしていること〉

- ・その日の参加者の意見を大事にしながらか、話す内容を決めていく。
- ・近況報告等、毎回全員が発言できる機会をつくり、お互いの関係性を深めていく。
- ・支援する側、される側という関係ではなく、対等な関係で参加できるようにする。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

開催回数：6回／年

開催時間：4時間

開催場所：各区保健福祉センター（6区）

講師：認知症地域支援推進員（地域包括支援センター職員）

内容：千葉市認知症施策、認知症の基礎知識、コミュニケーションの基礎と実践、チームオレンジについて～受講修了後の活動紹介～、ボランティア登録について

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・上記「5」を大切にすることで、支援する側、支援される側という概念を超えて、参加者みんなが「仲間」という意識を持てるようになった。
- ・若年性認知症当事者の話を介護者が聞くことで、自分の介護を振り返るきっかけとなり、気持ちを整理することができるようになった。

<課題>

新しい参加者が来ない、来れないことが課題と感じ、待つだけの活動ではなく、外出する企画を考えたり、来れないけれど参加したいという人の近くで開催してみるなど、新たな活動の仕方にチャレンジすることも大切。

8 チームのアピールポイント

認知症当事者、介護者（家族）、民生委員、行政職員、地域包括支援センター職員等、色々な立場の人が参加しながらカフェを開催している。

カフェでは毎回全員が一度は話をするようにしているので、お互いの状況を知ったり、考えていることを共有したりして関係性を築いている。

9 今後の活動について

これまでの活動を通して築けた関係性を大事にしながら、細く長く続けられるように工夫していく。

これまで通り、参加するみんなの意見を大切にしながら、新しい形の活動にもチャレンジしてみる。

千葉市②

チーム名 【 Green カフェ 】
タイトル 【 その人らしさを大切に 】

1 自治体情報（令和5年12月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
978,899人	257,467人	23.6%	271.78K m ²
千葉市稲毛区は こんなところ！ 人口：157,805人 高齢化率：27.1%	<p>千葉市稲毛区は千葉市の北西部に位置し、区域の大半は住宅地です。</p> <p>千葉大学をはじめとする高等教育機関や研究機関が集中していることから、恵まれた教育環境を生かした文教のまちづくりを進めています。</p> <p>また、中心部には、県総合スポーツセンターや宮野木スポーツセンター、園生の森公園、いきいきプラザ・いきいきセンターなど、スポーツ・レクリエーションの拠点が数多くあります。</p> <p>地域包括支援センターは5センター+1出張所、認知症カフェは10ヶ所です。</p>		

2 活動の概要




開始時期	令和3年5月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	茶話会、本人ミーティング、本人ミーティングで出た「やりたいこと」を叶える活動（園芸、音楽鑑賞、ハンドベル演奏等）
活動頻度	毎月第1土曜日 13時30分～15時
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	主催：介護予防の会 輝 ・認知症の人とその家族 ・認知症サポーターステップアップ講座修了者3名～ ・生活支援コーディネーター園生圏域 （認知症地域支援推進員兼務）
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター （認知症地域支援推進員兼務）

<p>チームオレンジの類型 ※1</p>	<p><input type="checkbox"/>第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/>第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/>第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/>その他</p>
<p>チームオレンジ三つの基本 について ※2</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/>3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている</p>

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

平成28年2月、認知症カフェ「Greenカフェ」開始。
 令和3年5月、行政からの紹介で傾聴ボランティア経験のある認知症サポーターステップアップ講座修了者1名がボランティアとして加わり、同月、カフェで「本人ミーティング」を開催。
 本人ミーティングでは「Greenカフェでやってみたいこと」をテーマに参加者が自由に発言し、翌月以降、その内容を叶える活動を実施することになった。

4 活動内容

(写真左：イラストの得意な修了者が当日の会話をイラストで表現)
 (写真右：本人ミーティングで出た「植物を育てたい」を実現した写真)

チームオレンジ活動の一環として、認知症の方本人のやりたいことをお聞きし、認知症カフェの時間を利用して、認知症の方本人と協力し実現に向けて活動。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

(1) 認知症サポーターへの働きかけ
 行政から圏域の認知症サポーターステップアップ講座修了者を紹介してもらい、修了者に声かけを行った。
 参加者の一人として楽しんで参加してもらい、認知症の方の隣に自然に座り声かけをしたり、傾聴してもらったりしている。

(2) 広報の方法
 地域包括支援センターからの紹介やチラシ配布、千葉市認知症カフェ一覧・千葉市認知症ナビへの掲載、口コミでの広報を行っている。

<主催者が大切にしていること>

- ・参加人数にはこだわらず、1人でも「ここに来てよかった」と言ってもらえる場所となること。
- ・認知症の方のやりたいことを一緒にできる場所となること。
- ・みんなで楽しめる場所になること。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

Green カフェのメンバーのうち、3名が千葉市の認知症地域支援推進員の活動班“認知症サポーターステップアップ講座班”が開催している認知症サポーターステップアップ講座に参加。

<講座の概要>

- ・開催時間：4時間
- ・開催場所：各区保健福祉センター（6区）
- ・講師：認知症地域支援推進員（地域包括支援センター職員）
- ・内容：千葉市の認知症施策、認知症の基礎知識、コミュニケーションの基礎と実践、チームオレンジについて～受講修了後の活動紹介～、ボランティア登録について

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・本人ミーティングをきっかけにチームオレンジとしての活動を始めたことで、認知症の方を含め、参加者から思い出ややりたい事などをお聞きする機会が増え、参加者のことをより深く知ることができるようになり、カフェの運営企画にも役立っている。
- ・必要に応じて、参加者と認知症サポーターステップアップ講座修了者が1対1で話す場を設けるなど、臨機応変に対応することを心掛けている。

<課題>

- ・地域包括支援センターからの紹介や、参加した方の口コミにより、少しずつ参加者が増えてきている。これからも紹介したい、参加したいと思ってもらえるような内容を取り入れながら続けていきたい。

8 チームのアピールポイント

認知症サポーターステップアップ講座を受けた介護経験者、栄養士、傾聴ボランティアや介護職経験者で構成されたチームで、和気あいあいとした雰囲気です。楽しい時間を過ごせるメンバー。

認知症の方、ご家族の方の参加をお待ちしています。

9 今後の活動について

参加された方が「ここがあってよかった」と思っていただけ居場所になれるように活動していく。

千葉市③

チーム名 【 気楽に桜木 】
タイトル 【 本人と家族の思いを大切に 】

1 自治体情報（令和5年12月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
978,899人	257,467人	26.3%	271.78K m ²
千葉市若葉区は こんなところ！ 人口：147,305人 高齢化率：30.86%	<p>若葉区は千葉市の北東部に位置し、面積は6区内で一番広く約84.21km²で東西に広がる地形です。</p> <p>若葉区の西部は、JRと千葉都市モノレールの駅があり、住宅が多く都心からの通勤圏内の地域でもあります。</p> <p>また、国の特別史跡に指定された日本最大級の貝塚「加曽利貝塚」や、美しい立ち姿で有名になったレッサーパンダの風太くんがいる「千葉市動物公園」があります。</p> <p>一方、千葉市内でも高齢化率が高い若葉区の東部は、農地や林地が広がる地域で、自然と触れあえる体験ができる「泉自然公園、富田さとにわ耕園、ウシノヒロバ、谷津田」などの公園や施設があり、人と自然が共存できる地域として農業の担い手育成にも力を入れています。</p> <p>地域包括支援センターは5センター、認知症カフェは5ヶ所です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和4年3月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	茶話会、折り紙、ゲーム、体操、散歩など
活動頻度	毎月第1土曜日（13時30分～15時30分） 毎月第3水曜日（10時00分～12時00分）
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	主催：あんしんケアセンター桜木 （あんしんケアセンター＝地域包括支援センター） ・認知症の人とその家族 ・認知症サポーターステップアップ講座修了者8名～ ・地域包括支援センター（あんしんケアセンター） ・生活支援コーディネーター桜木圏域（認知症地域支援推進員兼務）

チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター (認知症地域支援推進員兼務)
チームオレンジの種類 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型 (共生志向の標準タイプ) <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型 (既存拠点活用タイプ) <input type="checkbox"/> 第3類型 (拠点を設置しない個別支援型タイプ) <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和3年12月～2月、行政より認知症サポーターステップアップ講座修了者の情報提供を受け、修了者へ運営支援の協力依頼をし、同年3月に話し合いを実施後、第1回目の認知症カフェ「気楽に桜木」を開催。以降、地域包括支援センターとボランティアとの協働でカフェを運営している。

4 活動内容

参加者の方の「やりたいこと」を聞いて活動内容を決めている

【折り紙や葉づくり】



【屋外で散歩】



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

【失敗したこと】

- ・必ずしも日程通りに会場が予約できるとも限らず休むこともある。

【工夫したこと】

- ・本人の好きなことが歩くことならば「一緒に歩きましょう」という提案で、室内だけにとどまらず屋外での活動も行っている。
- ・本人のサポートのために、家族やケアマネジャーと連絡をとることもある。
- ・ボランティアには、自身の都合に合わせて可能な時に参加協力していただいている。また、SNSなどを活用して出欠の連絡や活動の報告などを情報共有し連携している。

【配慮したこと】

- ・認知症であっても認知症でなくても、一緒に何かに取り組むことを考えている。また、ひとりで歩くことが心配な方に、自宅からカフェ（会場）の道のりをサポーターと一緒に歩いて見守りを行うこともある。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

気楽に桜木のメンバーのうち、8名が千葉市の認知症地域支援推進員の活動班“認知症サポーターステップアップ講座班”が開催している認知症サポーターステップアップ講座を修了している。

<講座の概要>

- ・開催時間：13時～17時（4時間）
- ・開催場所：保健福祉センター・市役所等（令和5年度は5回開催）
- ・講師：認知症地域支援推進員（行政・地域包括支援センター職員）
- ・内容：千葉市の認知症施策、認知症の基礎知識、コミュニケーションの基礎と実践、チームオレンジについて～受講修了後の活動紹介～、ボランティア登録について

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・参加者から「今日も楽しかった」など、喜びの声をいただくようになった。ご家族からも「カフェに参加した日は気持ちが落ち着いています」との報告もあった。
- ・カフェに通いたいが、デイサービスの日程と重なっている方に対し、担当のケアマネジャーが、カフェとデイサービス共に利用できるようプランを立て直し、社会参加の機会を増やすことができた。

<課題>

- ・この地域には、認知症の方を介護されているご家族が相談しやすい環境で、介護者同士の意見交換などの交流ができる場所が少ないのが現状である。今後レスパイトケアにも力を入れていきたい。

8 チームのアピールポイント

「今日も楽しかった」で一日が終われるように、おだやかに、ゆるやかに、誰もが無理をしないで続けられるよう、心がけている。

9 今後の活動について

ご本人とご家族に寄り添って、ひとり一人の思いや気持ちを聞いて、「できたらいいな」をみんなで見守ることができるよう、サポートしていきたい。

チームオレンジの類型 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和4年8月	認知症の夫がいる妻（以下：Aの妻）から「認知症の人と家族と一緒に参加できる交流の場はないか」と生活支援コーディネーターに相談が入る。Aの症状進行やコロナ禍のため、地域活動や趣味のバイオリン練習に参加できずに閉じこもり気味になっていた。
令和4年9月	認知症サポーターステップアップ講座修了者（以下：修了者B）がコミュニティカフェのレンタルスペースにて、認知症サポーター養成講座を定期開催していた。Aはレンタルスペースから徒歩圏内に住んでいた。
令和5年1月	生活支援コーディネーター・行政担当職員より、Aの妻の声・認知症カフェの概要を伝えたところ、修了者Bはレンタルスペースにて認知症カフェを立ち上げることを決めた。
令和5年3～4月	認知症サポーターステップアップ講座修了者（以下：修了者C）が活動に賛同し、打ち合わせ（3回）、市内の認知症カフェの見学などを行った。
令和5年5月	修了者B・修了者Cが主催で「いつものカフェ」初回開催。参加者12名。修了者Bと生活支援コーディネーターがA夫妻を自宅まで迎えに行き、夫婦揃って参加した。
令和5年10月	Aの症状進行により、外出が難しくなったため、Aの自宅にて、「出張型いつものカフェ」を開催した。Aの妻の友人2名が参加した。

4 活動内容

(1) いつものカフェ

日時 第3土曜日 14:30～16:30 ※8月休み

場所 西千葉アトリエカフェ ぴりーぶ

内容 ①お話し会（フリートーク）・話題提供

②認知症サポーター養成講座 ※①と②を交互に開催



主催者



フリートーク



認知症サポーター養成講座

(2) 出張型 いつものカフェ（通称：Aさんカフェ）

頻度 3か月に1回 場所：Aの自宅

内容 ①お話し会（フリートーク）②楽器を楽しむ



主催者



フリートーク

Aさんの妻は友人と趣味の大正琴を再開し、カフェ内で演奏会が開催されました！

音楽の話題から、Aさんが久しく触っていなかったバイオリンを手に取り、演奏の構えを見せてくれました！

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

(1) いつものカフェの開催目的の確認

修了者B・修了者Cとは、認知症カフェの機能がありながら、「AとAの妻に寄り添った認知症カフェ」であることの共通認識を図った。

Aの外出が難しくなった際、Aの妻へ出張型のいつものカフェを提案したところ、快諾され、定期開催に繋がった。

一方、いつものカフェにはAの妻のほかにも認知症の人や家族なども参加し、参加者の声に耳を傾け、寄り添いながら、活動を継続している。

(2) 修了者B・修了者Cへの働きかけ

当初、修了者Bは認知症サポーター養成講座を開催のため、レンタルスペースの利用料を実費で借りていた。

一方、千葉市の認知症カフェ設置促進事業補助金は一定の要件があるものの、認知症カフェ内で養成講座を開催しても会場費は補助対象となること確認していた。

修了者Bへ打診する際、補助金の概要も含め情報提供を行い、認知症カフェ開催の合意が図れた。

そのため、いつものカフェ内で認知症サポーター養成講座の定期開催が継続されている。

修了者Bの協力者として、行政担当職員より、活動に賛同する修了者Cを紹介してもらった。修了者B・修了者Cとは毎月の開催に向け、メール・電話などで適宜連絡を取り合う、認知症カフェ終了後に振り返りを行うなど、共通認識を持ち、活動を進めた。

(3) チームオレンジの啓発

認知症サポーター養成講座では、いつものカフェに参加している認知症の人より、診断時の心情・普段の活動時の思いなど「本人の声」を発信している。

また、講座終了後に情報交換の場を設け、受講者へ活動意向の確認を行いながら、いつものカフェの取り組みを紹介、認知症サポーターステップアップ講座を案内などし、チームオレンジの協力者を一本釣りしている。

(4) 協力者とのネットワーク構築

生活支援コーディネーターが活動を通して出会った地域の活動者をマッチングしている。認知症マップ（手作りマップ）の活動者を繋げ、いつものカフェ内でワークショップを開催した。現在も緩やかな関係性を続け、有益な情報交換を行っている。

(5) 周知の方法

千葉市の生活支援サイト・千葉市認知症ナビ・千葉市認知症カフェ一覧に掲載した。生活支援コーディネーターより、認知症の人と家族をいつものカフェへ繋ぐ、当該地区の民生委員へ案内、コミュニティカフェ内にチラシの掲示・配架など支援した。

〈いつものカフェの主催者（修了者B・修了者C）が大事にしていること〉

①どんな些細なことでも、活動に参加・協力し続け、努力すること。

②参加者と支え合い、癒され、豊かさに繋がる過程を楽しむこと。共に生きること。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

いつものカフェのメンバーのうち、2名が千葉市の認知症地域支援推進員の活動班“認知症サポーターステップアップ講座班”が開催している認知症サポーターステップアップ講座を受講した。

〈講座の概要〉

開催時間：4時間 開催場所：各区保健福祉センター（4区・5会場）

講師：認知症地域支援推進員

（地域包括支援センター職員・第2層生活支援コーディネーター・行政職員）

内容：

- ①千葉市の認知症施策 ②認知症の基礎知識 ③コミュニケーションの基礎と実践
- ④チームオレンジについて～受講修了後の活動紹介～ ⑤ボランティア登録について

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

〈効果〉

- (1) AとAの妻の語りと憩いの居場所ができた。
- (2) 当該地区は介護予防教室（体操教室、散歩クラブなど）や老人クラブなどは既にあったため、認知症の人や家族、地域の人にとっての語りと憩いの居場所ができた。
- (3) 認知症カフェ運営者意見交換会（認知症地域支援推進員の活動班“認知症カフェ班”主催）への出席、参加者へ互いのカフェを案内など、認知症カフェ同士のネットワークができた。
- (4) 他地区の地域イベントにて、「いつものカフェ」の活動事例を出展したところ、介護サービス事業所より、「認知症カフェを始めたい」との相談があった。令和6年3月初回開催予定である。
- (5) 認知症カフェやチームオレンジ運営の好事例・モデルのひとつとして、見学者が来るようになった。
- (6) 生活支援コーディネーターとA夫妻は5年程前から地域活動を通して繋がりがあり、互いに安心感や信頼関係があった。また、地域資源の実態を把握していたことや関係機関とのネットワークがあったこともあり、チームオレンジの展開に特段問題なく進行できた。

〈課題〉

- (1) 現在、Aのチームオレンジの拠点が出張型いつものカフェに発展したため、いつものカフェの開催目的を見つめなおす時期になった。
- (2) A以外の認知症の人や家族の参加が増え、いつものカフェだけでサポートできることが限られてきた。
- (3) 地域（民生委員・町内会など）の認知度が低い。

8 チームのアピールポイント

認知症の人や家族の思いを寄り添う場所・活動をしている。身近な地域に悩みを相談できる場所があることを知ってもらいたい。

いつものカフェは息抜きの場所であるため、ぜひ、多くの方に参加してもらいたい。

9 今後の活動について

- (1) 出張型いつものカフェも引き続き開催し、AとAの妻の語りの場を作り、思いや声を聴き、寄り添いを続ける。
- (2) 7〈課題〉(1)より、いつものカフェでは、Aに限らず、認知症の人や家族・協力者の声や特技などを表現・実現する場所や機会を提供する。
- (3) 7〈課題〉(2)より、引き続き、市内の認知症カフェとの繋がりを強化し、双方の強みを活かしたい。また、参加者へお互いの参加者を紹介し合うなど、認知症の人と家族がいつものカフェだけで完結しないよう、複数の認知症カフェでサポートする関係を作りたい。
- (4) 修了者B・修了者Cの活動を可視化（明文化）し、関係者・協力者へ波及したい。

千葉市⑤

チーム名 【 Tea House わかば ～わかば散歩～ 】
タイトル 【 認知症当事者の方が参加する地域の居場所サロン 】

1 自治体情報（令和5年12月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
978,899人	257,467人	26.3%	271.78 K㎡
千葉市中央区は こんなところ！ 人口：213,881人 高齢化率：22.6%	<p>中央区は、千葉市の南西部に位置し、大正10年の市制施行以来、県都の政治・経済・文化の中心地として発展し、県庁、市役所をはじめ、各種公的機関が集中しています。</p> <p>また、JR千葉駅を中心にして、銀行・デパート・オフィスビル等が集まり、商業・サービス機能など多くの都市機能が集積しています。</p> <p>区郊外の東部地区には、青葉の森公園や都市緑化植物園等の公園施設や緑地が多くみられ、一方、臨海部は、千葉港のシンボルである高さ125メートルのポートタワー、人口海浜を備えたポートパーク、その他、大規模製鉄所などが立地し、東京湾岸に沿って京葉工業地帯を形成しています。</p> <p>フクダ電子アリーナは、Jリーグを始め各種イベントで大勢の方が利用されています。</p> <p>地域包括支援センター5カ所+1出張所、認知症カフェは9カ所です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	平成26年1月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	地域の居場所サロンとして、①茶話会 ②ちばしいいきき体操③ランチ交流会 ④わかば散歩 を実施しています。
活動頻度	わかば散歩 毎週火曜日 15:30～ ※当事者が参加されるゆっくり歩きの日は第4火曜日 その他活動の詳細は、 https://chiiki-kaigo.casio.jp/chiba で「Tea House わかば」を検索ください。
参加費	わかば散歩への参加は無料ですが、茶話会やランチ交流会に参加する場合は別途料金がかかります。
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）

メンバー構成	代表：認知症サポーターステップアップ講座修了者 ・認知症当事者 ・家族 ・民生委員 ・あんしんケアセンター松ヶ丘（認知症地域支援推進員）
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター （認知症地域支援推進員兼務）
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

このサロンのわかば散歩に認知症当事者が参加するようになったのは、認知症地域支援推進員が認知症の症状があるご主人の相談を奥様から伺うようになったのがきっかけである。

元々は外出好きなご主人だが、好きなドライブができなくなったせいか、気分が落ち着かなくなるといったことや1人で出かけて自分の居場所がわからなくなり、保護されてしまうといったことがあった。

ご主人から「外を自由に歩きたい」という要望を聴くことはできたものの、毎回の外出に奥様が付き添うには膝の状態がよくないということもあり、難しい状況だった。

そこで、認知症地域支援推進員が奥様不在でも安心して歩くことができる活動につなげられないだろうかと考え、同じ町内にあるサロン代表（認知症サポーターステップアップ講座修了者）に事情を説明し、ご主人が散歩の活動に参加されるようになった。

4 活動内容

散歩（1時間ほど）※集合場所のサロンからご主人の自宅を経由する



いつもは寡黙なご主人が散歩途中で「みんなで一緒に歩くと楽しいね」とつぶやく

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

散歩のスタートは集合場所であるサロンだが、ご主人が1人で行くのは難しいと判断し、サロンからご主人の自宅を経由する形で実施している。

はじめは、認知症であるご主人が参加されることに戸惑いを見せる人もいたが、サロン代表の提案により、毎週やっている散歩のうち月1回を「ゆっくり歩きの日」とし、認知症があっても参加しやすい形にした。

現在は、他の参加者からも「誰もが通る道かもしれないよね」「他の方も誘いたいね」など、認知症に対する理解が広がっている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

Tea House わかばの代表が千葉市の認知症地域支援推進員の活動班“認知症サポーターステップアップ講座班”が開催している認知症サポーターステップアップ講座を受講
<講座の概要>

- ・開催時間：4時間
- ・開催場所：各区保健福祉センター等で5回/年開催
- ・講師：認知症地域支援推進員（地域包括支援センター職員）・行政担当職員
- ・内容：千葉市の認知症施策、認知症の基礎知識、コミュニケーションの基礎と実践、チームオレンジについて～受講修了後の活動紹介～、ボランティア登録について

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

住み慣れた地域内での季節を感じながらのウォーキングは、認知症当事者の方に心の和らぎを感じさせることができている。現在は当事者であるご主人の奥様やご近所の方々の参加もあり、地域の中で介護予防・認知症予防への理解が得られてきている。

<課題>

サロンを運営している地域は高齢化が特に進んでおり、1人暮らしや高齢者介護世帯などで、今後ますますご近所同士の交流が大事になってきている。物忘れなどの症状が気になる方、外出が少なくなっている方などに対して、声かけができる環境が必要だと思いが、難しい面がある。

8 チームのアピールポイント

わかば散歩は、筋力アップ・健康増進などのウォーキング効果に合わせて、地域の学校や福祉施設などへの訪問、季節を楽しみながら元気回復の場として活動している。

月1回の「ゆっくり歩きの日」は、病院や買い物ぐらいの外出で地域との交流の少ない人にも声をかけているが、当日の参加者の状況を見て公園で脳トレなども取り入れ、皆一緒に楽しんでいる。

9 今後の活動について

地域へ「食と運動」をテーマに介護予防の事業を行っているが、民生委員やあんしんケアセンターなどと連携し、今後も地域の方々へ情報を発信し、交流の場としてサロン活動を行っていく。

また、認知症に対する理解を拡げるため、今後もサロン内で認知症サポーター養成講座を継続的に実施する。

千葉県⑥

チーム名 【 ふみこさん家 】
タイトル 【 ～古民家でほっこり人生を豊かに～ 】

1 自治体情報（令和5年12月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
978,899人	257,467人	26.3%	271.78 K㎡
<p>千葉県(花見川区)は こんなところ！</p> <p>人口：177,254人 高齢化率：27.6%</p>	<p>千葉県花見川区は千葉市の北西部に位置し、南北に長い形状で、6区の中でも人口が多く、約18万人の人々が生活しています。</p> <p>区域を縦断する花見川を中心に自然に囲まれたのどかな風景となっています。</p> <p>花見川流域に広がる農地では、野菜を中心とした都市型農業が営まれています。</p> <p>一方、内陸部には製造業を中心とした工場が進出し、工業団地を形成しているほか、南部にはJR総武線や京成線が通り、商業施設が見られます。</p> <p>また、JR幕張本郷駅周辺は幕張新都心の玄関口として発展を続けています。</p> <p>地域包括支援センターは6ヶ所、認知症カフェは5ヶ所です。</p>		

2 活動の概要

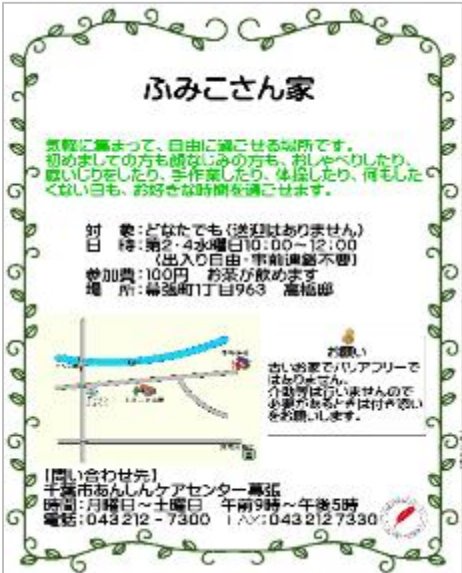
開始時期	令和5年7月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	体操、歌唱、脳トレ、朗読、手芸、木工、園芸、名人お披露目、輪投げ、ペットボトルボーリング等
活動頻度	毎月第2・4水曜日 10時～12時
参加費	100円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民 ・認知症サポーターステップアップ講座修了者 ・認知症の人とその家族 ・認知症の人と家族の会 ・花見川区第1層生活支援コーディネーター ・幕張圏域第2層生活支援コーディネーター （認知症地域支援推進員兼務）

チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター (認知症地域支援推進員兼務)
チームオレンジの類型 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

交流があった認知症サポーターステップアップ講座修了者と生活支援コーディネーターが新たに地域活動が出来る拠点を探していたところ、活動が出来る場所が見つかる。新たに地域活動を行いたい人、介護者、認知症サポーターステップアップ講座修了者、生活支援コーディネーターが拠点場所に集い3か月間話し合いを重ね「地縁 血縁が薄い人たちもゆるくつながれる場所づくり」を目的に掲げ、令和5年6月にプレオープン、同年7月に「ふみこさん家」を立ち上げた。

4 活動内容








ふみこさん家

気軽に集まって、自由に過ごせる場所です。
初めましての方も顔なじみの方も、おしゃべりしたり、
思いじやをしたり、手作業したり、お話ししたり、何もした
くない日も、お好きな時間を過ごせます。

対 象：どなたでも（送迎はありません）
日 時：第2・4水曜日10:00～12:00
（出入り自由・事前予約不要）
参加費：100円 お茶が飲めます
場 所：森強町1丁目963 高橋邸

お問い合わせ先
千葉県高齢者ケアセンター 葛城
〒270-0201 葛城町 千原95番 午後9時～午後5時
電話：043-212-7300 FAX：043-212-7330

(写真：「ふみこさん家」の活動の様子)

「ふみこさん家」の名称は、活動場所に住まわれていた「ふみこさん」の名前を残そうと運営者で考え名付けた。

開催時間を1部と2部に分け、1部は体操・歌唱・脳トレ・朗読、2部は運営者、参加者がやりたい事を行う活動。2部では地域の名人が芸を披露したり、参加者が自分たちでやりたい事を持ち寄り楽しんでいる。具体的には庭で農作業、ベンチ作り、手芸、ペットボトルボーリング、輪投げ、おしゃべり、何もしない等。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

<工夫・配慮>

運営者がほぼ全員初めて顔を合わせる構成だったため、お互いを知る・理解を深めるために開催までの3か月間でたくさん話し合いをした。

また、あくまでもボランティアなので無理せず自分たちの出来る範囲で活動することを前提に、また運営者が一番楽しめる活動にすることを心掛けた。

それらを踏まえて集いをするため、学習（ボランティアとは・助成金をもらう組織作り・リスク管理・保険等）・他の集いの見学等を実施。

<失敗>

活動場所が築100年以上の古民家なため、活動するたびに家屋の修繕が必要になった。冷暖房がないため、夏は暑く・冬は寒いという過酷な環境での運営となっている。

当初、運営費は参加費と運営の持ち寄りで活動する予定だったが、予想外に参加者が増え、運営資金が足りなかったため、途中から助成金申請となった。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

ふみこさん家のメンバーのうち、2名が千葉市の認知症地域支援推進員の活動班“認知症サポーターステップアップ講座”が開催している認知症サポーターステップアップ講座に参加。

<講座の概要>

- ・開催時間：4時間
- ・開催場所：各区保健福祉センター（6区）
- ・講師：認知症地域支援推進員（地域包括支援センター職員）
- ・内容：千葉市の認知症施策、認知症の基礎知識、コミュニケーションの基礎と実践、チームオレンジについて～受講終了後の活動について～、ボランティア登録について

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

近所同士の声かけで認知症の方が参加され、また地域包括支援センターの紹介で参加するなど自然と認知症当事者や介護者が集まっている。運営に認知症サポーターステップ講座修了者がいることで意図せずチームオレンジの活動になっていた。

参加者参加型であるため、自分たちが集う場として参加者と運営者が共に「ふみこさん家」を作り上げていることも参加者がこの場を楽しみにし、大事にしている理由である。

また、全員が自然に声を掛け合い、気を遣い合うような関わりのため、ご近所同士の関係性が「顔見知り」から「声を掛け合える」関係性のある地域となった。

独居で血縁が薄い男性が、この活動に参加され「スーパーで他の参加者から声をかけられた」と嬉しそうに話してくれた。

<課題>

運営者全員が認知症サポーターになっていない。

8 チームのアピールポイント

- ・運営者が一番楽しい場所
- ・楽しさは伝染る

9 今後の活動について

運営者・参加者が共に楽しみ出来る場所の継続

船橋市①

チーム名 【アルビス前原ケア連】
タイトル 【地域住民と共に我が地区を考え、発足したチームオレンジ】

1 自治体情報（令和5年10月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
648,380人	155,446人	24.0%	85.62K㎡
船橋市は こんなところ！	<p>船橋市は千葉県の北西部に位置し、都心や成田空港から近く発達した交通網を持ちます。</p> <p>豊かな自然もあり非常に恵まれた立地条件を備えたまちです。</p> <p>また、中核市では1番の人口を誇る都市です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和5年3月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	おしゃべりサロン、定例会、その他必要に応じて
活動頻度	毎月第4（火）13:00～14:00 サロン 14:00～15:00 定例会
参加費	なし
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	コーディネーター2名（地域包括支援センター） リーダー1名（住民サポーター）ステップアップ受講済 住民サポーター3名（民生委員）ステップアップ受講済 職域サポーター12名 ステップアップ受講済8名 （UR5名、居宅支援事業所7名） 認知症当事者3名 家族2名 R6.1月末現在
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

R3 年夏にこの自治会地区にて認知症徘徊等も多く、包括から UR と自治会に支援者での共有機会を提案。

R3. 10 月に包括、UR、民生委員にて会合し、「アルビス前原ケア連」発足。

チームオレンジの説明に賛同され、3 ヶ月に 1 回会合し、気になる高齢者と地区の課題を共有。コロナ禍のフレイル、認知症予防として、R4. 5 月から包括と他地区活動の「まえばら健康ウォークラリー」に共催。

詐欺被害の課題には、8 月に防犯対策セミナーを開催。8/3 認知症サポーターステップアップ講座をメンバーで開催し、認知症の人や家族の人の話ができる場を作ることとなった。

10 月からは毎月会合し、12 月から「おしゃべりサロン」を毎月開催。

毎回参加する認知症の人や家族がチームオレンジの活動に登録され、R5. 3 月にチームオレンジとして成立に至った。

4 活動内容

- ・月 1 回 UR 集会所にて、「おしゃべりサロン」を開催。

認知症の人とオレンジサポーター（チーム員登録者）および地域の人とのつながりの場、介護者家族の交流機会、認知症の理解啓発の場としている。

地域の気になる認知症の人や家族に声をかけ、本人のやりたいことや意欲につながるサポートをしている。

必要時はチーム員が自宅訪問し、話し相手、サロン参加の促しなど出前方式。

また、随時自治会会館も活用している。



おしゃべりサロン

【おしゃべりサロンは、認知症の理解を深めたり、認知症や身体が弱くなっても、地域で交え合える仲間を増やす場です。認知症の方で本人やそのご家族のみならず、介護されている方、関心のある方などでもお目に参加できます。ぜひお気軽に参加してみませんか！】

日 時：令和4年12月6日（火）13時～14時
場 所：URアルビス前原集会所（2号棟横）
参加費：無料 ※事前申し込み不要
**内 容：やりたいことやできることなど色々おしゃべり
体操、介護予防・認知症の講話、介護相談 等々**

「あんなに笑ってるとか、もろいって話したりしてさ。」
「定額でいいなってかおれになる。」
「うちの母は同じ病ばかり言ってくるのよね。」

主催：アルビス前原ケア連
新原自治会連合会、URアルビス前原、民生委員連合会、新原地域包括支援センター
問合せ先：新原自治会連合会
電話047-1-11111（19:00～16:00の休曜日以外）

- ・認知症の方やその家族に、「まえばら健康ウォークラリー」（月1回）への参加の声かけや一緒にコースを歩いている。



- ・月1回チーム員での定例会を行い、おしゃべりサロンの参加者の共有や気になる高齢者、地区の課題など共有している。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

チームオレンジの体制整備の為に、市から地区社会福祉協議会に協力の依頼。地域ケア会議にて共有をした。

しかし、チームオレンジの箱だけを作ってもボランティアする人は変わらず、支援が増える訳ではないとの声あり、主旨は伝わらず、進展はなかった。

自分達が必要と思えること（我が事）が大切と考え、自治会代表者やURに認知症の方の支援や高齢者の支援に関して投げかけをし、「アルビス前原ケア連」が発足した。

ステップアップ講座は多数に広報しても受講だけで終わり、オレンジサポーターの活動への結びつきは難しいと考え、意欲のあるメンバーとしてアルビス前原ケア連のメンバーに限定して実施した。

ステップアップ講座で地区の課題（認知症カフェや支える場なし）を共有することで、具体的活動に繋がった。

認知症の人でサービス利用なく、地域との交流が少ない方には個別で声かけしている。おしゃべりサロンの前日に電話やチーム員が当日訪問し、おしゃべりサロンへの参加を促している。

初回は専門職と住民サポーターが同行訪問し、上手くいったが、住民サポーターのみで訪問時に本人がご立腹してしまった状況があった。

本人の気分により無理強いしないなど対応を変えていくことを勉強していかなくてはならないと感じている。

本人の意向に合わせ、話を聞く、好きな作業活動を一緒に行う等している。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市内 24 地区で R3～R8 年度までに、チームオレンジ立ち上げに向けて各地区で地域包括支援センター職員を中心に開催。

ステップアップ講座の内容は認知症施策推進会議チームオレンジ作業部会で作成。「気づき」「受け止め」「つなぎ」をポイントとした内容。

【前原地区開催状況】年度 1 回開催

R4. 8. 3 アルビスケア連メンバーで、ステップアップ講座開催。7 名参加（6 名登録）。

R5. 10. 24 チーム員未受講の方とおしゃべりサロン参加者（認知症家族含め興味がある方）14 名参加（8 名登録）

【講座内容】

- ・ 1 回 3 時間 自治会館や集会所にて
- ・ チームオレンジコーディネーター及び認知症地域支援推進員（地域包括支援センター職員）の 2 名で講師
- ・ 上記、ステップアップ講座の内容に、認知症の人の気持ちや家族の気持ち、当地区の課題と活動紹介、身近なチームオレンジの具体例を紹介した内容。

【その他】

- ・ オレンジサポーター希望の方の中には認知症サポーター養成講座の未受講の方もおり、R5 年 8 月に認知症サポーター養成講座も開催。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・ 介護者同士が交流し、涙を流し共有や寄り合う場面もあった。（情報交換や気分転換）
- ・ サービス利用に繋がらず、介護負担が過度の家族と本人宅に訪問し、本人の思いを聞き、今までやってきた作業に焦点をあて声かけることで、サロン参加となった。その後、デイサービスでの対応の仕方に繋げ、サービス利用に繋がった。
- ・ 地域の気になる高齢者にオレンジサポーターが声をかけ、認知症の疑いを感じ、チーム員で共有し、サロンへのつなぎや専門職への相談に繋がっている。（気づきや受け止め、つなぎの機会の増加）
- ・ サロンだけでなく、地域の活動への誘いなどにも繋がっている。

<課題>

- ・ オレンジサポーターでない地域の方と交流機会も持っているが、認知症の人への対応の理解が難しい場面もあり、参加者への理解啓発は必要である。
- ・ 本人宅に訪問にて、サロンへ誘う際に、本人を怒らせてしまった。本人の気分により、無理強いしないことや、上手く行かない時もチームで共有し、対応方法を検討していくことや専門職への引継ぎも検討課題である。
- ・ おしゃべりサロンの中で、やりたいことや興味があることを実践する中での財源をどうするか検討が必要である。

8 チームのアピールポイント

「おしゃべりサロン」は認知症の人、介護者、地域住民問わず自由に参加可能。

サロンの中で認知症の人、家族、地域住民との交流の場であり、認知症や介護予防などの情報交換や専門職との相談により、対応の仕方の共有やご本人のアプローチを共有している。時には認知症のご本人宅に訪問して、話相手やサロンにお誘いもしている。

サロンはおしゃべりだけでなく、認知症の人や家族などとやりたいことや興味あることを共有して、次回の内容を決めている。

認知症の人や家族、高齢者などの居場所となるようオレンジサポーターが自然にサポートしている。またサロンだけでなく、地域での声かけや地域活動でもオレンジサポーターがサポートしてくれており、一緒に地域で暮らせる仲間としてチーム活動している。

9 今後の活動について

我が事として認知症の人やその家族一人一人の気持ちを大切に活動していく事を基本とし、サロン開催にとどまらず、認知症の人やその家族と地域とが自然につながり、互いにサポートできる地域となるよう、地区の課題を共有しながら、住民や団体、産業などと繋がっていく活動をしていく。

船橋市②

チーム名 【もったいない亭】
タイトル 【あなたの「したい」を応援する場所～参加しないのはもったいない～】

1 自治体情報（令和5年10月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
648,380人	155,446人	24.0%	85.62K㎡
船橋市は こんなところ！	船橋市は千葉県の北西部に位置し、都心や成田空港から近く発達した交通網を持ちます。 豊かな自然もあり非常に恵まれた立地条件を備えたまちです。 また、中核市では1番の人口を誇る都市です。		

2 活動の概要

開始時期	令和5年5月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	月1回のオレンジカフェ、ランチ、フリーマーケット等
活動頻度	オレンジカフェ：月1回（第4金曜日 14時～16時） その他必要に応じて。
参加費	500円（オレンジカフェ） その他活動に応じて実費発生
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	コーディネーター3名（包括職員）、チームリーダー1名（オレンジカフェ）、住民サポーター9名（オレンジカフェ、その他）、職域サポーター2名（在宅介護支援センター、民生委員）、認知症の人本人3名、認知症の人の家族1名 計19名 ※リーダー、住民サポーター5名 ステップアップ講座受講済。
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和4年5月に住民主体のオレンジカフェ「もったいないていオレンジカフェ」を開設。場所は代表者の自宅を利用している。

開設に合わせてカフェスタッフなどに向けて認知症サポーター養成講座の開催依頼があり、地域包括支援センター職員が講師を務め、行政担当者も参加し、つながりができた。

地域においてチームオレンジについて模索していた際、当オレンジカフェの代表者やスタッフがカフェでの活動以外にも様々なイベントを開催し、地域の交流の場となり、既にチームオレンジのような活動になっていることから既存拠点活用タイプとして検討し、チームオレンジコーディネーターより代表者にチームオレンジについて説明。

令和5年4月、5月に2部構成にてコアメンバー向けにステップアップ講座を実施。活動内容に大きな変わりはないが令和5年5月よりチームオレンジとして活動開始。

4 活動内容

月1回もったいない亭にてオレンジカフェを開催。

ランチ、常設フリーマーケット、月2回青空フリーマーケットを開催。

事例では介護保険サービスの利用が続けられない人をランチに招き、交流と見守りや情報共有の場ともなっている。

不定期でもイベントを開催。一例として、英会話や布わらじ作り、料理教室、小物作り等開催する中、認知症があってもなくても皆一緒に活動し、チームの一員として参加できることを行っている。

また、家族の交流の場ともなり、孫も参加することもある。

カフェの立地上、急階段でありバリアフリーではない環境ではあるが、それでも足を運びたい方もおり、リハビリにもなっている。

今後も皆のやりたいことを取り入れて活動を継続していく予定。

ステップアップ講座の様子



5 活動を進めていくうえで失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

既存のオレンジカフェスタッフを中心としてステップアップ講座を実施し、修了者をコアメンバーとして活動を進めている。

オレンジカフェの開催もチームオレンジ活動の一環とし、その他の各種活動についてもそれぞれが無理のない範囲で参加して継続していくことを意識している。

広報はチラシの他、メンバーによる普段の声掛けやつながりの中でお誘いをしている。
(オレンジカフェの広報については市のホームページや市で作成したオレンジカフェ一覧表を各所に配布し周知している)

実際の活動においては他のメンバー同士の関係性などを考慮し、皆が楽しく気持ちよく過ごせるようコアメンバーを中心に場の空気や接し方に配慮している。

(あるメンバーに対しては元介護職のコアメンバーが常に隣で様子を見るなどそれぞれの方に担当をつけて対応することもある)

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

令和5年4月28日、令和5年5月26日に2部構成にて実施。

場所はオレンジカフェの場である代表者の自宅、講師は地域包括支援センターに所属するチームオレンジコーディネーターが担当。

まず市の現状やチームオレンジについて、認知症サポーター養成講座の振り返りを行い、①認知症の人に「気づき」、②認知症の人を「受け止め」、③認知症の人や家族を必要な支援に「つなぐ」方法についての講座を計約180分実施した。②の「受け止め」の部分では実際の対応方法などを学ぶロールプレイを実施した。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果> 地域で心配な人に対し、最初は拒否していたがあきらめずに継続して声かけを行い、オレンジカフェへの参加につながった。

閉じこもり気味の方も生きがいにつながり、積極的に活動に参加されるようになった。

本人に安心感が生まれ、最終的には喜んでくれたため、社会的孤立を防ぐためにも継続した声かけの必要性を実感した。

<課題> このような体制を今後も続けていけるかどうか。若い人にも入ってほしい。

8 チームのアピールポイント

コアメンバーには元介護職が多いので「気づき」が多い。季節ごとに様々なイベントも考えており、とにかく皆が楽しめる心地よい場を目指している。

また、メンバーや地域の人々の「したいこと」をちょっとした手助けで実現できるよう活動している。

9 今後の活動について

もっと多くの人に知っていただき、活動に参加してもらいたいと考えている。

近隣の気になる人にもっと声をかけるなどコアメンバーの協力体制を無理のない範囲で強化していきたい。

また、今の場所は外からわかりづらく、玄関までの階段も急であるため、もっと気軽に立ち寄れるように新たな場所も検討している。

本人のできることは生きがいや役割につながる。やりたくても体力的に難しくなってくることもあるが、これからも本人のやりたいことを一緒に実現していきたい。

木更津市①

チーム名 【チームオレンジ・カフェなみおか】
タイトル 【～認知症になっても共に暮らしていける地域を目指して～】

1 自治体情報（令和6年1月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
136,611人	37,967人	27.79%	138.90K㎡
木更津市は こんなところ！	木更津市は房総半島中央部にあり、東京湾に面した千葉県の業務核都市です。東京湾アクアラインでの交通の便も良く、潮干狩りやアウトレットなど観光地としても有名です。温暖な気候で過ごしやすく、農業や漁業も盛んであり、高齢者の方たちが元気で活気あふれる街です。		

2 活動の概要

開始時期	2016年4月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	認知症カフェの開催、出前カフェ、訪問の実施
活動頻度	カフェは月1回。訪問は適宜。
参加費	100円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 地区社協 ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> ・住民サポーター ・ボランティアスタッフ ・地域包括支援センター
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域推進委員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

2016年3月、地域の関係機関に「認知症カフェ」である「オレンジカフェなみおか」設立の趣旨説明をして協力をお願いした。

また、地域住民へは、「オレンジカフェなみおか」がオープンすることを、「波岡公民館だより」で全世帯に広報した。

2016年4月、「オレンジカフェなみおか」が誕生した。

2023年2月、「オレンジカフェなみおか」の取り組みが「チームオレンジ」の活動であるということから木更津市第1号となる「チームオレンジ登録証」が授与された。

そこで、「チームオレンジ・カフェなみおか」と名称を変更した。

4 活動内容

- ・毎月1回「オレンジカフェなみおか」を開催して、ぬり絵、折り紙など指先を動かす取り組み・転倒防止、熱中症予防、認知症と入れ歯や栄養について、振り込め詐欺防止などのミニ講座・軽いリハビリ体操・楽器演奏による合唱など、元気を保つためのプログラム活動を取り入れている。
- ・悩みごと相談を受けて不安の解消に努めている。
- ・コロナによる緊急事態宣言で「オレンジカフェなみおか」が開催できない時、スタッフが利用者宅を訪問し、いわゆる「出前カフェ」を行い利用者が孤立しないように努めた。



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

当初、波岡公民館一階の和室(14畳)で開催していたが徐々に参加人数が増加して手狭になった。

そこで、波岡公民館と相談して一階集会室(定員90名)で開催することになった。

和室だと靴の脱ぎ履きで大変であったが、集会室は床で靴のままが良いので転倒の心配がなくなった。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市が開催するステップアップ講座にメンバーが参加し、チームリーダーを担う。

【木更津市ステップアップ講座内容】

- 第1回:講座の目的、認知症の基礎知識、木更津市の認知症に関する取り組み、地域の社会資源
- 第2回:認知症の人を理解するための基礎知識、家族介護者の思いを知る、認知症の早期発見・早期対応の重要性とMCI、認知症予防の考え方と認知症予防体操
- 第3回:若年性認知症とその支援、コミュニケーションの基本
- 第4回:実習(市内の認知症カフェに参加)
- 第5回:実習体験者からの発表、今後の活動や研修について

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・利用者より「オレンジカフェなみおかをつくってくれてありがとう」と声をかけられスタッフ一同やりがいを感じた。
- ・利用者は、悩みごとを抱え込まずにスタッフに気軽に相談するようになった。
- ・利用やスタッフの間で連帯感が生まれるようになった。スタッフは利用者との接し方になれて利用者の中に積極的に入っていきようになった。
- ・スタッフは、認知症の知識を共有するようになった。
- ・地区社協の構成団体として活動資金(年3万円)を受けられるようになった。
- ・「認知症カフェ」の活動が「チームオレンジ」の活動に進展した。

<課題>

- ・アウトリーチ的な訪問のケースがなかなか増えていかない、広報活動に注力したい。

8 チームのアピールポイント

- ・チームオレンジのスタッフは、次の3つの「ルール」
お互いに支え合いましょう！
思いやりを大切にしましょう！
個人情報を守りましょう！
を遵守して、誰もが楽しい一時を過ごせるよう心がけている。
- ・オレンジカフェ終了時や訪問後は必ず反省会を開催して振り返りを行い、次の取り組みに反映させている。
- ・南部地域包括支援センターとボランティアが協働して運営している。

9 今後の活動について

- ・ボランティアスタッフが高齢化しているので若手の育成が急務である。
- ・チームオレンジの紹介と利用を、「波岡公民館だより」「波岡東地区民生委員会」「大久保団地自治連合会」「一人暮らしのバスハイク」などで文章を添えて呼びかけたが訪問の希望者は誰も現れなかったため、広報活動に力を注いでいきたい。

木更津市②

チーム名 【 チームオレンジ・カフェはたざわ 】
タイトル 【 いつまでも元気で、みんな笑顔で過ごしたい 】

1 自治体情報（令和6年1月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
136,611人	37,967人	27.79%	138.90K m ²
木更津市は こんなところ！	<p>木更津市は房総半島中央部にあり、東京湾に面した千葉県の業務核都市です。</p> <p>東京湾アクアラインでの交通の便も良く、潮干狩りやアウトレットなど観光地としても有名です。</p> <p>温暖な気候で過ごしやすく、農業や漁業も盛んであり、高齢者の方たちが元気で活気あふれる街です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和5年7月10日
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	認知症カフェの開催
活動頻度	月1回
参加費	100円（スタッフは年会費1000円）
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（寄付金 ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（社会福祉協議会からの補助金）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人とその家族 ・地域住民 ・ボランティア（ステップアップ終了者含む） ・地域包括支援センター職員
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センターの認知症地域推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

この地域には認知症カフェがなく、住民サポーターより新規に立ち上げたいとニーズはあったが場所をどうするかで難航していた。

そんな時、包括を運営する法人施設が移転新設され「地域交流スペース」を利用できる事となり拠点に決まった。

リーダーが認知症ステップアップ講座を終了した同志を集め、それぞれが所属する地域、サークルや老人会で声掛けを行い15名程のスタッフが集まった。

プレオープンに向けて打ち合わせや話し合いを重ね、名簿や規約の作成、看板やチラシ作り、広報誌などで周知活動も行った。役割分担表を作りみんなで協力、助け合いながら楽しい時間を作っている。

4 活動内容



- ・健康体操や合唱
- ・クイズや脳トレの実施
- ・住民同士の交流
- ・地域包括支援センターによる介護や医療相談
- ・認知症イベントへの参加

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

カフェのイベントでスタッフに事前準備や注意点の告知がなく当日トラブルが発生、連携が必要であったがその連絡方法について口頭でリーダーに伝えても聞いていない、覚えていないという事態が度々発生、文書で残る形の連絡方法を検討した。結果グループLINEを活用することに。

一方でイベントの内容については反省会以外で事前に検討する直接の場が無く毎月の反省会で膨大な時間を要していた。

スタッフ皆の予定を合わせて別日に行う事を検討した。

運営はスタッフが中心で地域包括は後方支援の立場で必要に応じてアドバイスをもらっている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市が開催するステップアップ講座にメンバーが参加し、チームリーダーを担う。

【木更津市ステップアップ講座内容】

第1回：講座の目的、認知症の基礎知識、木更津市の認知症に関する取り組み、地域の社会資源

第2回：認知症の人を理解するための基礎知識、家族介護者の思いを知る、認知症の早期発見・早期対応の重要性とMCI、認知症予防の考え方と認知症予防体操

第3回：若年性認知症とその支援、コミュニケーションの基本

第4回：実習（市内の認知症カフェに参加）

第5回：実習体験者からの発表、今後の活動や研修について

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・認知症サポーターステップアップ講座修了のリーダーがカフェの企画・運営に積極的に意見し、近所の方を誘ってくれている。
- ・包括支援センターに協力してもらいチラシを様々なところに配布、地域住民にも興味をもってもらえた。
- ・少しずつ周知されていく達成感がメンバーもモチベーションアップに繋がっている。

<課題>

- ・活動が月1回のみとなっている。・男性のカフェ参加者が少ない。・ボランティアの高齢化。施設内感染が広がった場合開催中止もありえる。送迎があれば参加者増が見込める

8 チームのアピールポイント

- ・陶器のティーカップなど器やコーヒー豆にこだわっている。
- ・チーム員全員、オレンジ色のスカーフを着用して結束力を図っている。
- ・スタッフは名札をつけ名前を覚えてもらい、参加者も名前シールを貼り話しかけやすい雰囲気づくりをしている。
- ・ボランティア保険の加入により安心して参加できている。個人情報の守秘義務を理解しながら参加者を一人にしないように声掛けに気を配っている。
- ・認知症の人も1名スタッフとして参加している。

9 今後の活動について

近隣と交流がなく独居で引きこもりの高齢者へ直接自宅訪問して話し相手をする出前カフェを行いたい。

その中で、認知症のある方や家族の困りごとのニーズを把握し、お手伝いや相談相手になる。認知症ステップアップ講座をスタッフ全員受講していく。

木更津市③

チーム名
【 チームオレンジ誰でもサロン 】
タイトル
【 ~ 老いても、病気や障がいをもっても、 その人らしく地域で暮らし続けていけるように ~ 】

1 自治体情報（令和6年1月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
136,611人	37,967人	27.79%	138.90K m ²
木更津市は こんなところ！	<p>木更津市は房総半島中央部にあり、東京湾に面した千葉県の業務核都市です。</p> <p>東京湾アクアラインでの交通の便も良く、潮干狩りやアウトレットなど観光地としても有名です。</p> <p>温暖な気候で過ごしやすく、農業や漁業も盛んであり、高齢者の方たちが元気で活気あふれる街です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和5年12月20日
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	認知症カフェの開催、見守り活動、外出支援など
活動頻度	月1回
参加費	500円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人とその家族 ・地域住民 ・ボランティア（ステップアップ終了者含む） ・地域包括支援センター職員
チームオレンジ コーディネーターの属性	木更津市役所高齢者福祉課及び地域包括支援センターの認知症地域推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

2016年より、井戸端介護のスタッフと、長年、地域で精神保健福祉ボランティアとして、当事者研究をはじめ活動されている方がボランティアで始めた。

最初のはじまりは、家から出たがらない、引きこもっているおばあちゃんがお茶を飲みに来れるように、少人数でサロンをはじめてみようかと企画した。

誰でもどうぞと、サロンを開いてきた中で、精神障がい当事者、介護をしているご家族、子育てをしているお母さん、若年性認知症当事者、県の若年性認知症コーディネーター、民生委員、社協、ケアマネ、福祉関係者、地域包括支援センター職員など、その時々、縁があった人が誰でも気軽に来て過ごせる居場所になった。

2023年、誰でもサロン運営メンバーが認知症ステップアップ講座を受講し、2023年12月、チームオレンジとして登録した。

4 活動内容

月1回、デイサービスが休みの日曜日を利用して、10時～16時出入り自由で開催。午前中はお昼ごはん作り、午後はお茶菓子をつまみながらゆっくりと過ごしている。手伝いたい人が手伝い、ソファで寝ている人も、お話をしている人もいる。

午後は、参加者の高齢者の人が歌を歌ったり、若年性認知症当事者の人がフルートを吹いたり、東京から介助者と一緒に参加している重度の脳性麻痺の人は、自分の自立生活を発表したり、「ありのままの私」を表現する場にもなっている。



SINCE 2016

チームオレンジ 誰でもサロン



「まあまあ、お茶でも一杯どうぞ」

誰かと一緒に、食べるごはんの美味しいこと
TVをみたり、経緯をしたり
酒で過ごすように、酔ったりと

— 誰でもサロン —

- 日時：毎月1回 第3日曜日、または第4日曜日に開催しています。
10:00～16:00 出入り自由です。
- 午前中は昼食作り、午後はお茶菓子をつまみながらのんびりと。
手伝ってもよし、観てもよし。お気軽にお越しください。
- 場所：ぽった庵 本栗津市中央5-4-1
- 参加費：ごはん代500円(約)レオお茶菓子のみ100円(約) 差し入れ歓迎

書いても、病気や障がいをもっても、その人らしく、

地域で暮らし続けていけるように

誰でもサロンは、介護保険や制度に関係なく、縁があった人が誰でも気軽に来て過ごせる居場所です。
介護をしているご家族がほっとひと休ませたり、悩みごとを話せたり、介護や福祉の現場で働いている人たち、認知症コーディネーター、地域のボランティアの方々と一緒にサロンを楽しめます。

2023年よりチームオレンジの拠点のひとつとして活動しています。

【問い合わせ先】 ぽった庵 0430-97-7987 【協力】 中郡地域包括支援センター

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・運営メンバーが、食品衛生責任者講習を受講し、食品の扱い、除菌、消毒は徹底している。
- ・次回サロンのお知らせを、運営メンバーが、事前にそれぞれ声かけや連絡をしているが、当日にならないと、参加者が何人くるかわからないため、お昼ごはんの準備が大変である。多いときは30食になることもある。
- ・初めて参加しても、緊張しないように、声かけや、話があいそいなひとを繋いでいる。
- ・金銭的に余裕のない方からは、参加費をもらっていない。代わりに食器洗い等、お手伝いできることを協力してもらっている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市が開催するステップアップ講座にメンバーが参加し、チームリーダーを担う。

【木更津市ステップアップ講座内容】

第1回：講座の目的、認知症の基礎知識、木更津市の認知症に関する取り組み、地域の社会資源

第2回：認知症の人を理解するための基礎知識、家族介護者の思いを知る、認知症の早期発見・早期対応の重要性とMCI、認知症予防の考え方と認知症予防体操

第3回：若年性認知症とその支援、コミュニケーションの基本

第4回：実習（市内の認知症カフェに参加）

第5回：実習体験者からの発表、今後の活動や研修について

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果 参加者の声>

- ・鬱で長くひきこもっていた人がサロンに出てきて、人と交流できるようになった。
- ・家だと誰とも話さない、一人だとあまり食べない、サロンに来ると野菜が多い、ごはんが美味しくて、気づいたら完食してた。意欲、食欲が出てきた。
- ・ここに来ると顔なじみの人たちがいてほっとする。悩みを聞いてもらえて、気持ちが楽になった。明日もなんとかがんばろうと思える。
- ・家で寝込んでいる家族の分も、お弁当にしてもらえて助かる。サロンに来れなくても話すきっかけになる。

<課題>

- ・会場は木更津駅から近いので、参加者には自力で来てもらっていますが、どうしても来れない人は送迎している。
 - ・参加者が多いと、駐車場が足りないなので、近隣のコインパーキングに停めてもらうようにしていますが、金銭的に余裕がない人もいるので、駐車場をどうするか。
- サロン当日だけ、近くの中部地域包括支援センターの駐車場が借りれないだろうか。

8 チームのアピールポイント

「老いても、病気や障がいをもって、その人らしく地域で暮らし続けていけるように」
「困ったときは、お互いさま」を愛言葉に、誰でもサロンは毎月開催、活動している。

木更津はお祭りが盛んで、夏の一大祭り「やっさいもっさい」にも「どたばた連」(市内の高齢、障がい福祉関係者、当事者が参加できる連)として参加できる連があるので、サロンのメンバーを誘い、顔なじみの関係性が続いていくように、つながり続けている。

出逢わないと相手の困りごとは見えてこない。

「あの人元気かな、最近調子はどう？」気かけあうことで、困ったときに助けあえるように、これからも自分たちにできる活動を続けていきたい。

9 今後の活動について

介護で疲れているご家族や子育てで悩んでいるお母さんがほっとひと息できたり、悩みごとを話せたり。それぞれが抱えている悩みやしんどさは、すぐには解決できないことも多いが、サロンでごはんを食べたり、話したり、苦労話を聞きあいながら、「また、来月ね!」と、ゆるんで帰られる姿をみていると、続けてきてよかったなと感じている。

誰でもサロンは、介護保険や制度に関係なく、縁があった人が誰でも気軽に来て過ごせる居場所である。

介護や福祉の現場で働いている人たち、認知症サポーター、地域のボランティアの方々と一緒にこれからもサロンを開き、行政や包括と連携しながら、チームオレンジの拠点のひとつとして活動していきたい。

松戸市①

チーム名 【 小金地区オレンジ協力隊 】
タイトル 【 認知症の人と共に 】

1 自治体情報（令和5年12月末現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
498,222人	129,068人	25.9%	61.38K㎡
松戸市は こんなところ！	<p>都心から20km圏に位置し、千葉県の東葛地域（北西部）の一翼に位置しています。</p> <p>全市域が台地、斜面地、低地の連続によって構成され、坂道や階段が多い特徴があります。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和1年10月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	傾聴訪問、パトウォーク、街カフェ・地域交流会への参加
活動頻度	月に1回～3回
参加費	無料
運営財源	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	オレンジ協力員 認知症当事者 地域包括支援センター職員 等
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター職員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

地域包括支援センターの働きかけにより、オレンジ協力員が地域個別ケア会議に参加し、認知症の人の地域課題を把握した。

地域個別ケア会議で確認された課題として、認知症の人は予定を忘れてしまい、ひとりで地域活動等に参加することが難しい。

又、自分の思いを人に話す機会が少ないということから、個別支援を開始した。

4 活動内容

【オレンジガーデニングプロジェクト】（オレンジフラワープロジェクト）

マリーゴールドを育て、認知症普及啓発のため施設や地域住民にプレゼントした。

【オレンジ協力員個別訪問】

認知症当事者宅を定期的に訪問し、傾聴・散歩支援を実施している。

【オレンジ協力隊パトウォーク】

認知症当事者、オレンジ協力員、地域包括支援センター職員がチームになり、公共機関やひとりで外出が困難な高齢者・認知症高齢者宅等を訪問し、チラシ等で詐欺防止や体操教室の開催などの情報発信を行っている。

【地域交流会】

企画準備を行い、テーマに沿った交流を実施（参加者：ひとりで外出が困難な高齢者、認知症当事者、オレンジ協力員、地域包括支援センター職員等）

【認知症サポーター養成研修、認知症予防教室、街カフェ、認知症高齢者声かけ訓練、介護者のつどい等】介護予防体操の見本、運営補助等



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・オレンジフラワープロジェクトは、猛暑の中の毎日の水やりが大変で育てるのが困難であったが、啓発効果は高い。
- ・スタッフとして参加しているオレンジ協力員から認知症サポーター養成講座受講者に、オレンジ協力員の登録を案内し、今後仲間として活動参加を呼び掛けることが効果的だった。登録者には、地域包括が主催する定例会（毎月）へ案内し、定例会への参加は時間調整が難しい方へは個別に各種活動へ案内を行った。
- ・オレンジ協力員定例会では、活動の実施方法を話し合い、実施後の振り返りを繰り返すを行い、主体的に活動できるようサポートしている。
- ・オレンジパトウォークでは、オレンジ協力員の意見を元に距離の違う2つのコースに分けオレンジ協力員の体力に合わせた参加を可能にしている。又、個別訪問先での傾聴の時間を増やし、交流を深めている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

令和5年度 オレンジ協力員ステップアップ研修

場所【小金市民センター】 時間：10:00～（1時間程度）

研修①5/17 講座『オレンジ協力員の活動について』グループワーク『チームオレンジとは』

研修②8/16 講座『認知症と高齢者虐待』（講師：地域包括職員）

研修③10/18 民生委員との交流会 『認知症の人が活躍できる街～まつど～を目指して』

研修④12/20 グループワーク 『認知症介護について～介護者の気持ちを考える～』

研修⑤2/21 講座『認知症の理解』（講師：地域包括職員）

研修⑥10/20～31（内6日間）実習『傾聴実習』（実習先：グループホーム）11名参加

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・認知症に対する理解が深まった。
- ・コミュニケーションの大切さへの理解が深まった。
- ・オレンジ協力員同士の仲間意識が芽生えた。
- ・認知症が他人ごとではない、身近な問題として捉えられるようになった。

<課題>

- ・地域包括支援センターが管轄する範囲が広く、活動拠点が広く遠くなる。
- ・オレンジ協力員が少ないエリアにパトワークのニーズがある。
- ・エリアを分けて活動すると地域包括職員と一緒に活動するのに移動が大変。

8 チームのアピールポイント

一緒にいると、優しい気持ちになれる仲間。

9 今後の活動について

- ・オレンジ協力員の活動をより主体的に進めるため、チームごとにリーダーを作っていきたい。
- ・オレンジ協力員の少ない地域に協力隊を増やしていきたい。

松戸市②

チーム名 【 新松戸地区オレンジ協力員 】
タイトル 【 認知症の方もくらしやすい地域にするために 】

1 自治体情報（令和5年12月末現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
498,222人	129,068人	25.9%	61.38K m ²
松戸市は こんなところ！	<p>都心から20km圏に位置し、千葉県の東葛地域（北西部）の一翼に位置しています。</p> <p>全市域が台地、斜面地、低地の連続によって構成され、坂道や階段が多い特徴があります。</p>		

2 活動の概要

開始時期	
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	パトウォーク、個別訪問、普及啓発、認知症カフェ、体操教室
活動頻度	月3～4回程度
参加費	無料
運営財源	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	オレンジ協力員 市民、認知症当事者 地域包括支援センター職員
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター職員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

地域の見守り活動としてパトウォークを実施している。

独居高齢者など他者と話をする機会が少ない方、足腰が悪くなかなか外に出られない方、認知症の方等を把握し、個別訪問を開始。

現在ではパトウォークの中で個別訪問も実施している。

4 活動内容

- ・パトウォークを通して包括の周知活動や地域の見守り活動、個別訪問の実施
- ・花ももカフェ（認知症カフェ）の参加
- ・学童向けに認知症サポーター養成講座の実施
- ・アルツハイマーデーイベントとして、認知症の映画鑑賞、地域包括支援センター前にパンフレット等設置を行い、認知症の普及啓発を実施

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

学童向け認知症サポーター養成講座では、クイズや紙芝居等を準備し子どもたちが飽きないように工夫をした。

花ももカフェではみんなで作品を作ることで自然に参加者同士が会話できるような環境作りを行った。

パトウォークは、集合解散場所に職員が行くがパトウォーク自体はオレンジ協力員のみで実施する形に変更し、オレンジ協力員が主体的に活動できるようにした。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

令和5年9月27日（水）に地域包括支援センターの会議室で認知症予防について地域包括支援センター職員が講義とグループワークを実施した。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・パトウォークを始めた頃に比べ、地域包括支援センターの認知度が上がった
- ・新松戸地区で初めて子供向けに認サポを実施できた
- ・アルツハイマーデーのイベントで地域包括支援センター前にパンフレット等設置すると、通りすがりの方が足を止めて見てくれる様子があり、普及啓発につながった

<課題>

- ・認知症カフェの参加者や新規参加者（特に男性）が少ない
- ・個別訪問の対象者が少ない
- ・映画鑑賞の参加者が20名弱だったため、より周知をしていく必要がある

8 チームのアピールポイント

オレンジ協力員としての活動以外にも、地域活動や趣味等様々な活動をしている方々が多い。それぞれのご経験から認知症のご本人にも配慮してコミュニケーションを取ってくれる。

9 今後の活動について

・オレンジ協力員として活動意欲のある方も多いので、主体的に活動ができるよう支援していきたい。

松戸市③

チーム名 【 矢切地区チームオレンジ協力員 】
タイトル 【 サロン「わたし」とオレンジパトウォーク 】

1 自治体情報（令和5年12月末現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
498,222人	129,068人	25.9%	61.38K㎡
〇〇市(〇〇町)は こんなところ！	<p>都心から20km圏に位置し、千葉県の東葛地域（北西部）の一翼に位置しています。</p> <p>全市域が台地、斜面地、低地の連続によって構成され、坂道や階段が多い特徴があります。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和2年 9月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	2地区に分けて地域パトロール、フレイル予防等
活動頻度	週1回程度
参加費	無料
運営財源	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	平成29年10月に立ち上がったサロン「わたし」の参加されていたオレンジ協力員や地域住民、認知症介護者、認知症当事者等。
チームオレンジ コーディネーターの属性	介護予防に興味のあるまたは積極的な地域住民や民生委員・児童委員等
チームオレンジの類型 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

平成 29 年 10 月に高齢者の居場所作りとして立ち上がったサロン「わたし」のメンバーからコロナ渦におけるフレイル防止や認知症予防、地域交流を目的としてオレンジパトウオークの活動が開始される。

介護相談や早期相談や早期支援も念頭に地域包括職員も毎回参加することとなる。

4 活動内容

毎週 1 回パトロールコースを 2 種類設け、1 時間を目途に参加者で地域パトロールを行う。

自身のフレイル予防や地域の防犯、各種イベントや地域包括支援センターの PR のためのチラシポスト投函などを行う。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

【失敗したこと】

参加者の中には整形系の疾患がある方も多く、その方の歩行ペースに合わせて周回コースを長距離、短距離と体に無理なく参加できるように試したが、分散することにより交通事故や怪我等のリスク管理が難しく（職員配置など）、参加者からの反応も鈍かったため断念した。

【工夫したこと】

認知症当事者やその家族も参加できるよう調整し、オレンジ協力員の活動にも結びつけた。

【配慮したこと】

比較的身体状況が良好な方と良くない方とが気持ちよく参加できるよう、坂のあるコースや職員配置など調整しどなたでも参加できる条件を崩さなかった。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

認知症の方への対応方法やパトウオークの改善点の共有などを目的にステップアップ講座内で検討を行った。

講師、司会は地域包括支援センター職員が進行し介護者の集いやサロン活動からパトウオークへ繋げるための連携の強化を行った。

その後、実際介護者のつどい参加者から認知症本人とその家族のパトウオーク参加に至った。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

参加者のフレイル予防や地域交流を目的に定期開催した。

参加者からは交流を通して楽しみながら運動ができた、筋力が維持できている等のお声をいただき介護や認知症予防の一環として運営できている。

<課題>

雨天中止や季節によって日が落ちる時間帯が変わるため不規則開催になる時期があるが参加者からは急な変更で戸惑う方もおられる。

スムーズな連絡手段や分かりやすい伝達方法などを改善していく必要があると感じている。

8 チームのアピールポイント

ご自身の介護予防はもちろん、地域とのつながりや地域貢献を積極的に行いたいと思っている参加者が多い。

また、認知症当事者や家族への配慮やハンデがあるかたへの配慮も多くしていただき、新規の方でも参加しやすい雰囲気がある。

9 今後の活動について

地域の高齢の方々の憩いの場、介護予防の場として開催を継続しながら幅広い参加者を拡充していく予定（認知症当事者、家族介護者、施設入所者、若年性認知症、外国籍等）

佐倉市

チーム名 【 ー 】
タイトル 【 頼りになるチームオレンジを目指して！ 】

1 自治体情報（令和6年1月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
170,208人	56,974人	33.5%	103.69K㎡
佐倉市は こんなところ！	<p>千葉県北部、下総台地の中央部に位置し、都心から40km、成田国際空港へは15kmの距離にあります。</p> <p>市北部には印旛沼が広がり、印旛沼周辺や佐倉城址周辺、また東部・南部の農村地帯などには豊かな自然が残っています。</p> <p>佐倉城跡は、城址公園として整備され、佐倉連隊の置かれた地には、国立歴史民俗博物館が建てられています。</p> <p>その他にも、武家屋敷や旧堀田邸、佐倉順天堂記念館など、歴史の舞台となった場所が多く残ります。</p> <p>佐倉城本丸跡の桜や城址公園の菖蒲のほか、印旛沼のほとりにあるふるさと広場のチューリップや向日葵、コスモスなど、季節ごとに自然の美に囲まれたカラフルな大地が佐倉の特色です。</p> <p>広場内にはシンボルである本格的オランダ風車「リーフデ」が風の力で雄大に回っています。（佐倉市HPより）</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和3年11月 (ステップアップ講座を開催し、チームオレンジ結成)
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	<p>現在51名のメンバーが、地域包括支援センターと協力して地域で活動中。</p> <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護者教室で、認知症の方の付き添いや見守り ・オレンジカフェで、認知症の方や家族の付き添い、見守り、作業のお手伝い、認知症の方の得意なことを活かしたレクリエーションの企画・運営（音楽、手工芸など） ・介護予防教室、介護予防の通いの場に参加している認知症の方の見守り、声かけ、お誘い ・「認知症サポーター養成講座」の開催のお手伝い

	・各地域で開催される「認知症高齢者声かけ訓練」で、企画・運営のお手伝い、参加している地域の方への助言など
活動頻度	随時
参加費	—
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他(市の予算) ※上記の財源 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他()
メンバー構成	一般市民(ボランティア経験者、民生委員等)、介護・福祉・医療専門職、包括職員、行政職員
チームオレンジコーディネーターの属性	行政職員 1 名(認知症施策担当) 地域包括支援センター職員 1 名(認知症地域支援推進員)
チームオレンジの種類 ※1	<input type="checkbox"/> 第 1 類型 (共生志向の標準タイプ) <input type="checkbox"/> 第 2 類型 (既存拠点活用タイプ) <input type="checkbox"/> 第 3 類型 (拠点を設置しない個別支援型タイプ) <input checked="" type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3 つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3 つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和元年 6 月に認知症施策推進大綱において令和 7 年度までにチームオレンジの整備が示されたことから、市内 5 か所の地域包括支援センターに配置されている認知症地域支援推進員が中心となって検討を重ね、令和 3 年度よりチームオレンジを結成。

メンバーは日頃から介護予防ボランティア、民生委員など地域包括支援センターと連携を図りながら地域で活動する方に直接声をかけ、現在 51 名が活動中。

ステップアップ講座の講師をつとめた認知症ケア専門士や地域包括支援センター職員もチームの一員であり、市民も専門職もみんなで認知症の人を支えていく体制となっている。

4 活動内容

- ・認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座の講師(キャラバンメイト有資格者)
- ・介護予防の通いの場に参加している認知症の方のお誘い、見守り、声かけ、ちょっとしたお手伝い
- ・介護に関するテーマを学ぶ教室で、グループワークのファシリテーターを担当
- ・地域包括支援センターが開催するオレンジカフェのお手伝い(参加のお誘い、参加中の声かけ、見守り、付き添い、お出かけ企画の同行と付き添い、作業の補助等)
- ・認知症の人と家族、地域住民の方が一緒に参加できる「ボッチャ大会」のイベントの企画・準備・当日運営のお手伝い
- ・認知症高齢者声かけ訓練にスタッフとして参加
(道に迷って声をかけられる役の方の付き添い、補助、参加者の声かけに対する助言など)



←右手前で腕章をつけているのが
チームオレンジのメンバーです。
迷子役の方（中央で帽子をかぶっ
ている女性）とペアを組んで、声
をかける参加者の様子を見守ったり、
上手に声をかけられた方をねぎらっ
たりしてサポートします。

- ・9月の世界アルツハイマー月間に合わせ、市役所や図書館、駅、公園の売店などに設置した啓発コーナーに飾るため、認知症の人や家族、地域住民からのメッセージを記載した「希望の木」の企画・作成、認知症のテーマカラーやイラストを活かした飾りの作成



↑ 市内5か所のオレンジカフェの参加者を中心に、認知症の人の「ちょっとした希望」や「やってみたいこと」を記した「希望の木」を作成し、アルツハイマー月間に市内各所に掲示しました。大きな木の絵に、認知症の本人、家族、地域の皆さんからのメッセージを書いた葉っぱをたくさん貼りつけ、飾り付けもみんなで行いました。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

もともとオレンジカフェのお手伝いや地域で通いの場の運営等で活動しているメンバーが多いため、チームオレンジ結成後も地域包括支援センターと協力しながら各自の活動を継続するなかで、認知症の人や家族への個別支援(ゆっくりお話を聞いたり、今後の活動に生かせるような本人の得意なことを見つけるなど)を充実させられるよう取り組んでいる。

また、各地域の活動状況を共有し、メンバー同士の交流を図るために、市内5か所の地域包括支援センターのある地域ごとに集まり、それぞれ情報交換会やアルツハイマー月間の掲示物作成、イベントの企画などを行っている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

令和3年11月に第1回、令和4年10月に2回目の講座を開催。(内容は同じ)

【内容】

- ・佐倉市の認知症施策、社会資源(市職員、認知症地域支援推進員)
- ・認知症の基礎知識の振り返り(認知症地域支援推進員)
- ・認知症の方への意思決定支援(認知症ケア専門士)
- ・パーソンセンタードケア(認知症ケア専門士)
- ・認知症の人への対応ロールプレイ(認知症ケア専門士、キャラバンメイト)
- ・チームオレンジの活動報告(認知症地域支援推進員 ※2回目の講座から)

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・お手伝い活動やメンバー同士の情報交換により、認知症の方への対応についてより一層理解が深まった。
認知症の方への対応においては、特に本人の意思決定・発信支援に着目し、本人がやりたいことをみつけて、一緒に進めて行くという視点のもと活動を行っている。

<課題>

- ・認知症当事者をチームオレンジへどうお誘いするか、併せて受け入れ態勢の整備

8 チームのアピールポイント

もともと介護予防ボランティアや民生委員など、地域で活動していたメンバーが主であり、メンバー同士、またメンバーをサポートする認知症地域支援推進員との連携がとれているため、チームオレンジ活動に対する理解・協力を得られやすく、フットワークも軽快。

認知症の有無にかかわらず高齢者への対応経験も豊富な方が多いことから、オレンジカフェなどで認知症の当事者や家族のちょっとした悩み、困りごとをキャッチすると、さりげなく寄り添い、お話を伺うことができる。

地域で気になる方を見つけた際も地域包括支援センターと協力して見守りや必要時の支援につなげやすい体制が取れている。

9 今後の活動について

当事者の希望や「やってみたいこと」を引き出し、当事者も家族もチームオレンジもみんなと一緒に楽しめるイベントや居場所づくりにつなげていきたい。

旭市

チーム名 【 】
タイトル 【 まずは自分の近所から！一歩一歩はじめています！ 】

1 自治体情報（令和6年1月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
62747 人	20,215 人	32.2%	130.48K m ²
旭市は こんなところ！	<p>旭市は千葉県の北東部に位置し、南部は美しい弓状の九十九里浜に面し、北部には干潟八万石といわれる房総半島屈指の穀倉地帯となだらかな丘陵地帯である北総台地広がっています。</p> <p>平均気温は15度と温暖な気候です。産業では施設園芸、畜産、稲作、露地野菜など盛んな農業をはじめ、水産業、工業などバランスよく成長しています。</p> <p>東総地域の中核都市として今後の発展が期待されます。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和4年10月
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・世界アルツハイマー月間における普及啓発活動 ・認知症高齢者等見守り声かけ模擬訓練 ・Run 伴 in 旭への参加
活動頻度	不定期
参加費	—
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	認知症サポーターステップアップ講座修了者（オレンジ協力員）、地域包括支援センター職員等
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

認知症サポーターステップアップ講座修了者（オレンジ協力員）へ、認知症関連事業への参加を呼びかけ、活動が少しずつ広がった。

4 活動内容

1. 世界アルツハイマー月間における普及啓発活動

市役所庁舎内に認知症の普及啓発のパネル展示を実施。



手芸が得意なオレンジ協力員さんを中心に認知症サポーターキャラバンのマスコットキャラクターであるロバ隊長の展示物を作成しました。



2. 旭市認知症高齢者等見守り声かけ模擬訓練



高齢者が多く住む団地周辺で開催。市内のケアマネジャーや地域包括支援センターの職員に加え、オレンジ協力員や地区の民生委員さんも参加し、認知症高齢者役への声かけ訓練、見守りシールの読み取り練習を実施しました。

3. Run 伴 in 旭への参加

地域の医療・介護・福祉関係者とともに櫛を繋ぐRun 伴 in 旭（Run 伴実行委員会の主催）にオレンジ協力員もボランティアとして参加。地域の関係者と顔が見える関係づくりが進む。



イベント内で見守りシールの啓発講座も実施しました。あさピーについている見守りシールのQRコードを読み取っています。



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

オレンジ協力員が、活動に参加することが負担にならないよう配慮した。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

時期：令和4年9月、令和5年7月の2回実施。

時間：合計4時間（2日に分けて実施）

講師：キャラバンメイト、千葉県認知症コーディネーター等

内容：市の認知症施策、チームオレンジについて、認知症サポーターの役割、認知症の理解、コミュニケーションの基本・実践（ロールプレイ、グループワーク）、地域でできること・サポーター活動を考える

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

地域貢献の意欲があるオレンジ協力員が複数育成された。

<課題>

オレンジ協力員が定期的に集まり、活動する場が現段階でない。

8 チームのアピールポイント

「まずは自分のご近所から。」と、認知症を自分事として考える心強いオレンジ協力員が地域の見守り活動や、心配な高齢者の情報提供などで力を発揮している。

9 今後の活動について

今後は認知症の当事者である本人を中心とした活動に発展できるよう、本人ミーティングや認知症カフェの運営を進めていきたい。

柏市

チーム名 【 かしわオレンジフレンズ 】
タイトル 【 認知症にやさしいまち柏を目指して 】

1 自治体情報（令和5年10月現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
435,202人	113,067人	25.99%	114.74K m ²
柏市は こんなところ！	<p>千葉県<small>の</small>北西部に位置し、都心から電車で30分程度の距離にあり、首都圏の代表的なベッドタウンとして昭和30年頃から人口が増加し発展したまちです。</p> <p>また、市北部には、つくばエクスプレスの開通による新たなまち、柏の葉キャンパスがうまれています。</p> <p>様々なお店と商業施設が軒を連ねる柏駅周辺から、少し離れるとあけぼの山公園や手賀沼など自然が豊かで、利便性と自然の両方が共存している地域です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	平成29年4月～
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	認知症カフェ、介護者交流会、オレンジ散歩、オレンジフレンズ交流会、見守りパトロール
活動頻度	2回/年～2回/月 ※登録する地域包括支援センターによる
参加費	参加者負担
運営財源	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> ・かしわオレンジフレンズ(認知症サポーター養成講座修了者) ・認知症地域支援推進員 ・本人 ・介護者
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの種類 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている ※地域包括により異なる <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

認知症サポーター養成講座を受講者のうち、ボランティアなど認知症の理解に向けた普及啓発活動を希望するかたを「かしわオレンジフレンズ」として、地域包括支援センターに登録。

現在は12か所ある地域包括支援センターにそれぞれチームオレンジがあり、オレンジフレンズは希望する活動に申し込み、ボランティア活動に参加している。

また、ボランティア活動だけではなく、オレンジフレンズ交流会やフォローアップ研修会などで認知症の人への対応などを学び合う機会も設けている。

4 活動内容

- ・認知症カフェ（ホッとカフェ）での当事者の見守り、付き添い、声掛け
- ・認知症介護者交流会での相互交流や補助
- ・オレンジ散歩での誘導
- ・オレンジパトウォーク（気になる方の住む地域をパトロール）
- ・認知症サポーター養成講座での補助
- ・アルツハイマー月間での認知症啓発イベント参加



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・かしわオレンジフレンズが自身の居住地を所管する地域包括支援センターに登録することで、気軽に活動できるような仕組みとした。
- ・NPOや自主グループは地域包括支援センターと連携して活動しているので、地域包括支援センターを介して自分たちの活動をかしわオレンジフレンズに紹介することができ、認知症に携わる人材の循環が生まれている。
- ・認知症カフェや介護者交流会などの情報をホームページに掲載する他、かしわオレンジフレンズ活動補償保険に加入により、活動を後押ししている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

開催状況：年1回、参集とオンライン（Zoom）のハイブリット形式で実施。

令和5年度の講座内容

【講義】「成年後見制度について」

【講師】社会福祉協議会 社会福祉士1名

【報告】成年後見制度を利用した事例報告

【報告者】地域包括支援センターの認知症地域支援推進員1名

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

認知症カフェや介護者交流会などに参加された本人や家族がオレンジフレンズと顔なじみになり、地域で行われる別の活動にも声を掛け合っている姿も見られる。

認知症本人にとっても、介護サービス以外での地域とのつながりが出来ることで、社会参加の機会となっている。

<課題>

- ・地域包括支援センターによって活動内容や活動頻度の取り組みにバラつきがある。
- ・かしわオレンジフレンズの高齢化や前期高齢者の就労促進等により、ボランティア活動の先細りが懸念される。

8 チームのアピールポイント

かしわオレンジフレンズは、自身の居住地を管轄する地域包括支援センターに登録することで、自らが住む地域で気軽に参加できるようになっている。

また、同じ地域に住む認知症のかたやご家族と普段からボランティア活動をとおして顔の見える関係になれることで、認知症になっても住み慣れた地域で暮らせるよう、地域でゆるやかに見守る体制づくりにつながっている。

9 今後の活動について

引き続き、認知症サポーター養成講座の際などでかしわオレンジフレンズへの参加を呼びかけを行っていくとともに、認知症カフェやオレンジ散歩など活動の中でかしわオレンジフレンズがより主体的になるよう、地域包括支援センターでのオレンジフレンズ交流会やスキルアップ研修会等をとおしてかしわオレンジフレンズのスキルアップを図っていく。

鎌ヶ谷市

チーム名 【チームオレンジ】
タイトル 【 認知症にやさしいまちづくりの歩み 】

1 自治体情報（令和5年9月30日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
109,362人	31,200人	28.53%	21.08平方K㎡
鎌ヶ谷市は こんなところ！	<p>鎌ヶ谷市は千葉県の北西部、北総台地のなだらかな緑の大地の上に広がる都市です。</p> <p>市内には、東武野田線・新京成線・北総線・成田スカイアクセス線の鉄道4線と道路網が発達しており、都心から25キロメートル圏内にあることから、首都近郊の住宅都市として発展してきました。</p> <p>一方、こうした発展の中でありながら、豊かな農地や緑の環境を持ち、梨の名産地としても全国にその名を知られています。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和4年1月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input checked="" type="checkbox"/> その他（オレンジサポート員、認知症カフェ、認知症地域支援推進員）
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ロバのマスコット作りを通じて、ご本人・ご家族の居場所作りをする ・地域のイベントに参加し認知症普及啓発活動を行う
活動頻度	月1回程度、地域のイベントに関しては随時参加
参加費	なし
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	オレンジサポート員、住民、認知症の本人、地域包括支援センター職員、認知症地域支援推進員、医療・介護関係職員
チームオレンジ コーディネーターの属性	
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他

チームオレンジ三つの基本
について ※2

■3つの基本を満たしている

□3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和4年1月に新たにオレンジサポート員となった方が住む築40年を超える住宅団地を中心に、コロナ禍中の閉じこもりがちな生活と、交通の便が悪い立地条件などを踏まえて、歩いて少人数で通える場所（サポート員の自宅）でロバのマスコット作りをスタート。

『登下校する小学生のランドセルにロバのマスコットをつけてもらうのが夢』というメンバーの言葉に、認知症地域支援推進員が関係者への周知活動をサポートし、輪が広がる。

活動拠点も住宅団地内にある市の事業の高齢者の交流の場である老人憩いの家の集会室に移り、毎月1回の定期活動化と日頃の自宅での作成活動にも発展。

時には認知症の方や介護者も参加される機会もあり、近隣施設や地域のスポーツ団体の監督から材料の寄贈や、管理事務所の方が一緒にロバを作ってくださいることもあり、周囲の理解や協力も広がり出している。

また、別の地区のオレンジサポート員と認知症地域支援推進員が認知症カフェの開催時間に集まりロバを作り、交流の輪を広げて普及・啓蒙活動を行うことになった。

4 活動内容

ロバ作りをきっかけとして定期的に集まり、認知症の普及啓発活動を行う。

地域で認知症のような症状がある方、または認知症の本人を誘って一緒にロバ作りをすることで地域の輪を広げて顔の見える関係づくりを行う。

多職種がメンバーになることで、困りごとがあった際に必要な支援に繋げることができ体制を作る。

作成したロバは認知症サポーター養成講座を受講した小学生や高齢者と関わりのある民生委員等にお渡しし、身に付けていただくことで認知症の普及啓発活動や見守りをしている。

カフェを活動拠点としているオレンジサポート員はカフェのイベントに参加しながら、認知症の本人・その家族の話を傾聴し、一緒にロバ作りを楽しんで交流を行い、地域に根差した関係づくりを行っている。

令和6年2月現在、活動拠点が4か所に増えて、交流の場として定着しつつある。また、地域のイベントに参加し、認知症に関するクイズラリーや作ったロバをお渡しして外部発信を行っている。

活動拠点によっては、自分たちの地区で地域包括支援センターと協力し、家族交流会を開催している。

北中コミセンロバづくり



これはベース ロバづくり



認サポ GH 理事会



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

住民の主体的な活動とペースを尊重し、ロバを作ることだけが目的にならないように、認知症地域支援推進員と一緒に参加し、普及・啓発活動を行った。

活動拠点や外部との交流が増えたことで、認知症普及啓発と離れた方向にいつてしまう可能性があり、中心となるメンバーが軸となる認知症の人への理解や交流の場、地域作りの考えを持って活動していただくようにしていかなければならない。

また、ひとつのことに執着し過ぎると次の活動に繋がっていかないというデメリットもあるため、様々な人の意見を取り組み、講座を行う等の活動にも広げていくことも配慮している。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

年度に1回2時間ステップアップ講座を市庁舎内で開催している。

<講座内容>

- ・キャラバン・メイトによる認知症サポーター養成講座の復習
- ・認知症サポート医の講義 かかりつけ主治医との関係づくり、認知症の方の体調管理の大切さについて
- ・社会福祉協議会職員より「ボランティアについての心得」
- ・市認知症施策担当より「他市事例紹介とオレンジサポーター員活動発表」
- ・グループワーク（「こんな活動していただけますか」「こんな活動ならできるかも」）

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

活動拠点が増えることで、今まで行けなかった方々にも足を運んでいただき交流の場として広がりつつある。

地域のイベントに参加することで幅広い年齢層の方々にも認知症の普及啓発活動が行えている。

<課題>

オレンジサポーター員が自主性を持って活動してもらうにはどうしたらよいか。

活動拠点が増えたが、各地域での特色を活かした活動に繋げるにはどのようにしたらよいかという課題がある。

野菜カフェ 見守り応援団

認サポ GH管理組合

小学校認サポマスコット寄贈メッセージ



8 チームのアピールポイント

ロバ作りに参加されているチーム員、住民、認知症の本人・その家族の何気ない言葉から個別の課題、地域の課題、新しい活動ができるようにしている。

参加者が話しやすい環境をすること、じっくりと信頼関係を作ること、全員で活動しているという意識を持ち、小さなことからコツコツと行っている。

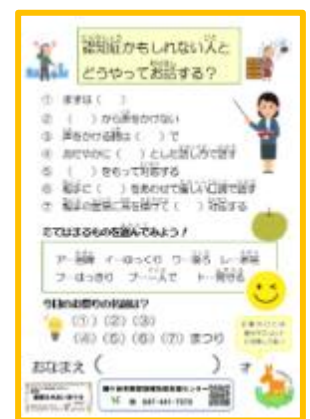
オレンジサポート員の意見として、ひとりでは活動するのは難しい、不安があるという方が多いが、チームとしてなら活動できるサポート員は多く、実績を積んでいくことで認知症の本人・家族との交流や地域づくり活動に自信をつけてもらっている。

自分たちが行っている活動を少しずつ外部に発信できてきているため、実感を持って活動している。

9 今後の活動について

認知症の人・その家族、地域との交流を深めていく。活動を外部発信し、地域のイベントに足を運ぶことで地域づくりをおこなっていく。

各地区での特色を活かした活動にしていく。



富津市①

チーム名 【岩坂お助けクラブ】
タイトル 【近所で助け合い・できることを行っていく】

1 自治体情報（令和6年1月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
41,119人	16,286人	39.6%	205.4K㎡
富津市は こんなところ！	<p>富津市は、房総半島の中西部東京湾側に位置し、南北40kmに及ぶ海岸線と、緑豊かな鹿野山や、切り立った崖の鋸山など、海や山に囲まれた自然豊かなところです。</p> <p>東京湾に突出した富津岬は、関東の天の橋立と言われ、南房総国定公園にもなっています。</p> <p>潮干狩りや海水浴、ハイキングなどで多くの皆さんに楽しんでいただいています。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和3年4月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	住民主体の助け合い
活動頻度	毎週水曜日（富津市いきいき百歳体操後に構成員でミーティング）。助け合いは依頼による
参加費	支援内容により異なる
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	岩坂地区の住民ボランティア（老人クラブの会員または富津市いきいき百歳体操の有志から構成）
チームオレンジ コーディネーターの属性	コーディネーターの設置なし
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和3年4月に住民主体による助け合いサービスを開始し、地域の見守り等を行っていた。

認知症の当事者の対応等について認知症地域支援推進員に相談があり、この団体を支援していた生活支援コーディネーターと一緒に訪問し、支援の様子を見守っていた。

根気よく活動を続け顔なじみとなり、訪問すると困りごとなども話せるようになる。

4 活動内容

訪問による日常生活支援サービス。高齢者の自宅において、ごみ出しや除草作業、外出の付き添いなど日常生活の困りごとに対する生活支援。



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

メンバー同士が悩みや相談等をアドバイスし合える雰囲気作りに取り組んでいる。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

年1回開催。認知症のふり返り。ステップアップ講座について。認知症の方への接し方について。チームオレンジの説明。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

閉じこもりとなっていた認知症当事者と散歩を継続しているうちに顔なじみとなり、チームと一緒に活動している。

<課題>

チーム員の高齢化。

8 チームのアピールポイント

できることをお手伝いしていく。

9 今後の活動について

メンバーを増やしていきたい。

富津市②

チーム名 【飯野すみれ会】
タイトル 【お互い様を忘れず、住み慣れた地域でいきいきと】

1 自治体情報（令和6年1月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
41,119人	16,286人	39.6%	205.4K㎡
富津市は こんなところ！	<p>富津市は、房総半島の中西部東京湾側に位置し、南北40kmに及び海岸線と、緑豊かな鹿野山や、切り立った崖の鋸山など、海や山に囲まれた自然豊かなところです。</p> <p>東京湾に突出した富津岬は、関東の天の橋立と言われ、南房総国定公園にもなっています。</p> <p>潮干狩りや海水浴、ハイキングなどで多くの皆さんに楽しんでいただいています。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和3年6月28日
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	いきいき貯筋体操、認知機能向上のための脳活性化トレーニング、防災や認知症等に関する外部講師を招いての講演、ボッチャ等
活動頻度	毎週水曜日
参加費	0円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	認知症サポーター 認知症フォローアップ研修修了者
チームオレンジ コーディネーターの属性	コーディネーターの設置なし
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和6年1月31日、認知症ステップアップ研修を11名の認知症サポーター・活動している方々に向け行った。

4 活動内容

- ・現在一人暮らしの方の見守りや、お互いさまという気持ちで、自分の買い物のついでに買い物の手助けをしている。
- ・運動教室等に行きたいが移動手段のない人を、車に乗せて一緒に参加したりしている。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

安心して参加できる環境作り・居場所と思える雰囲気作りをしている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

今年度の開催は年に1回

内容：チームオレンジについて(具体的活動について)

体力・知力で地域と交流

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・認知症の理解が進んだ

<課題>

- ・認知症になったら何もできなくなってしまうという考えが見られている。
- ・活動内容を具体化。

8 チームのアピールポイント

認知症の本人や家族の思いを大切に、お互いさまの気持ちを忘れず、チームオレンジのメンバーも楽しみながら活動を行う。

9 今後の活動について

週1回、歌に合わせた筋力アップ体操(いきいき貯筋体操)を行いながら、集い、活動をする。

認知症の人も地域の仲間の1人として、一緒に活動できる環境づくりを行っていく。

浦安市

チーム名 【 ー 】
タイトル 【既存の資源を活かした個別の移動支援事例】

1 自治体情報（令和5年12月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
170,802人	31,707人	18.56%	16.98K㎡
浦安市は こんなところ！	<p>東京都に隣接し、東京湾と旧江戸川の海と川によって三方を囲まれた、約4キロ四方の非常にコンパクトな街です。</p> <p>集合住宅が全戸数の8割弱を占め人口密度が高い。</p> <p>浦安三社祭、大型レジャー施設を中心とした観光業など地域によって、その趣が違うという特徴があります。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和5年7月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	本人ミーティングの送迎、散歩
活動頻度	第1、3、4月曜日 午前
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（社会福祉協議会からの補助） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	認知症の人、家族、ケアマネ、民生委員、 外出支援の住民ボランティア（認知症サポーター） 認知症地域支援推進員
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

- ①本人ミーティング参加にあたり、当初市で送迎していたが、外出支援の送迎ボランティアをご紹介し、利用につながる
- ②月1回の本人ミーティング以外にも、お散歩などの外出機会を増やしてみてもどうかとボランティアからの提案
- ③ ボランティアが、団体として認知症サポーター養成講座を受講
- ④認知症地域支援推進員より、現在実施されている認知症の人の外出支援活動は、「チームオレンジ」の活動そのものであること、チームオレンジの意義について等を団体の定例会で会員の皆さんにお伝え→ステップアップ講座

4 活動内容

- ・本人ミーティングの送迎（月1回）
- ・外出・運動・交流機会の確保のための散歩（月2回～3回、10時～11時）



ボランティアが2人1組で活動。本人の希望に沿って、本人ミーティングへの送迎や散歩、買い物を一緒に楽しむなどの活動を行っている。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・新たな取組をするのではなく、今取り組んでいる活動がチームオレンジであり、意義深いものであること、困ったことがあれば相談しながら進めていくことなどをお伝えし、担い手の負担感軽減に配慮した。
- ・本人の希望に応じ、柔軟な外出支援を行っていただいている。（散歩同行だけでなく、買い物同行など。）

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

外出支援の住民ボランティア約20名を対象に、団体の定例会に合わせて開催
(内容) チームオレンジについて、チームの活動内容、チームメンバーについて、
今後の活動予定について など
(講師) 認知症地域支援推進員

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・認知症の人が安心して本人ミーティングに参加継続でき、介護保険サービス以外の外出の機会を持つことができています。
- ・認知症サポーターの方が、認知症の人とともに過ごす機会を持つことで、認知症の正しい理解推進につながっている。

<課題>

- ・ボランティア団体の担い手が少ないことから、他に支援を希望する当事者がいた場合、同様の支援を行えるよう、担い手拡充のための取組みを継続していく。

8 チームのアピールポイント

ご本人の身近な場所で、季節の移り変わりを楽しみ、たくさんのおしゃべりとともに散歩活動をしている。

9 今後の活動について

ご本人は、地域のために何かしたいと意欲的な方、令和 4 年度は RUN 伴のお手伝いに協力いただいた。

本人ミーティングと連動しながら、引き続き地域のための活動を検討、チームとして取り組んでいきたい。

四街道市①

チーム名 【 チーム さくらそう 】
タイトル 【日替わりシェフの店でおこなうオレンジカフェでの支え合い】

1 自治体情報（令和6年1月1日現在、面積のみ令和3年9月17日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
96,479人	27,260人	28.3%	34.52K㎡
四街道市は こんなところ！	<p>当市は県北部に位置し、千葉市と佐倉市に隣接しています。 人口は昭和40年代から、大型団地が数多く誕生したことにより急激に増加しました。</p> <p>また、県都千葉市へ8キロメートル、都心へ40キロメートルの圏内にあり、首都圏のベッドタウンとして自然と都市機能が調和しながら成長してきたまちです。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和4年10月～
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	オレンジカフェ
活動頻度	1ヶ月に1回
参加費	600円程度
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	認知症当事者、介護者家族、オレンジボランティア、介護支援専門員、理学療法士2名（市内勤務）、作業療法士1名（市内勤務）、地域包括支援センター職員
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和2年11月から日替わりシェフの店さくらそうで開催しているオレンジカフェの発起人に認知症地域支援推進員が働きかけ、令和4年6月に認知症サポーター養成講座、10月にステップアップ講座に参加してもらった。

発起人がオレンジボランティアになったことで、認知症の理解が進み、カフェ運営にも生かされている。

4 活動内容

発起人がオレンジボランティアとなり、オレンジカフェのメンバーとアルツハイマーイベントの準備をしたり、オレンジカフェで会食する食事作りをして、認知症の方やその家族の居心地のよい居場所づくりをサポートしている。



紅葉狩り



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・オレンジカフェ発起人に認知症地域支援推進員が声かけをして、認知症サポーター養成講座やステップアップ講座の参加を促した。認知症の理解が進み、より充実したカフェへと発展している。
- ・当事者の参加しやすい工夫として、オレンジボランティアが食事を提供したり、専門職による体操、イベントを企画している。
- ・介護者が本音で話せる工夫として、当事者と介護者が分かれてサロンをする日を作っている。オレンジボランティアが当事者のサポートや介護者の相談役を担っている。
- ・オレンジカフェ終了後に、オレンジボランティアと専門職でカフェの反省と振り返りを行っている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市内で年2回定例開催。認知症サポーター養成講座終了後、1～2か月後に実施している。講義は2時間。講師は市職員と地域包括支援センター職員で実施。

内容は①四街道市の動向について②チームオレンジとは③当事者の思いについて④認知症の方も安心して暮らせるまちへ～当事者からのメッセージ～⑤認知症の方への対応について（グループワーク）等

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

オレンジボランティアや参加者と一緒にオレンジカフェのあり方や内容を考えることで、見守り、助け合う雰囲気が自然と生まれている。

<課題>

カフェの発起人や専門職、オレンジボランティアなど協力者がいるが、地域包括支援センター職員の関わりがないと、カフェ運営が難しい状況にある。

8 チームのアピールポイント

- 認知症の人とその家族、地域の人が気軽に集い、語り合える居場所である。
- おいしい食事を一緒に食べることで、自然と会話が生まれ、認知症がある方もない方も関係なく仲良くなれる居場所である。

9 今後の活動について

オレンジボランティアが食事を作り、地域とおいしさでもつながるオレンジカフェとして、認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らせる居場所を作っていく。

四街道市②

チーム名 【 チームまるん 】
タイトル 【 同じ住宅団地のサロンで認知症の方を支え合う事例】

1 自治体情報（令和6年1月1日現在、面積のみ令和3年9月17日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
96,479人	27,260人	28.3%	34.52K㎡
四街道市は こんなところ！	<p>当市は県北部に位置し、千葉市と佐倉市に隣接しています。 人口は昭和40年代から、大型団地が数多く誕生したことにより急激に増加しました。 また、県都千葉市へ8キロメートル、都心へ40キロメートルの圏内にあり、首都圏のベッドタウンとして自然と都市機能が調和しながら成長してきたまちです。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和5年10月～
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	おしゃべりサロン
活動頻度	月2回
参加費	100円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（自治会費） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	オレンジボランティア、団地住民、当事者、民生委員、介護職、元自治会長
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

生活支援コーディネーターの声かけで始まったおしゃべりサロンに認知症当事者の方がいた。

元々、近隣住民が助け合って当事者を支援していたが、当事者の認知症が進行してきたため、認知症地域支援推進員が働きかけて令和5年9月にサロンに向けて認知症サポーター養成講座を開催。

地域ケア会議をサロンの立ち上げメンバーに開催して当事者理解を進めた後、10月にステップアップ講座の参加を促し、チームまるんを結成する。

4 活動内容

サロンの中で認知症当事者に、声かけや訪問をしている。

また、当事者が転倒してケガをした際には、病院に一緒に行ったり、入院時も本人と連絡を取って励ますなど、力強いサポーターとなっている。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・地域ケア会議をサロンの立ち上げメンバーと民生委員に開催して、認知症当事者の理解を進めた。

また、当事者家族と地域をつなげて、チームオレンジの活動が行いやすい工夫をした。

- ・認知症当事者の対応がオレンジボランティアの負担にならないように、地域包括支援センターにいつでも相談できるようサポートしている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市内で年2回定例開催。認知症サポーター養成講座終了後、1～2か月後に実施している。講義は2時間。講師は市職員と地域包括支援センター職員で実施。

内容は①四街道市の動向について②チームオレンジとは③当事者の思いについて④認知症の人も安心して暮らせるまちへ～当事者からのメッセージ～⑤認知症の方への対応について（グループワーク）等

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

サロン全体の認知症の理解が進み、認知症になっても住み慣れた地域で住み続けることができる見守り体制の構築ができた。

<課題>

オレンジボランティアの高齢化

8 チームのアピールポイント

団地に住んでいる顔なじみの関係だからこそ、安心して助け合えるアットホームなチームである。

9 今後の活動について

認知症になっても仲間はずれになることなく、地域で生活ができるようにチームの充実を図る。

四街道市③

チーム名 【 チームわろうべの里 】
タイトル 【 オレンジカフェわろうべの里での活動 】

1 自治体情報（令和6年1月1日現在・面積のみ令和3年9月17日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
96,479人	27,260人	28.3%	34.52K㎡
四街道市は こんなところ！	<p>当市は県北部に位置し、千葉市と佐倉市に隣接しています。 人口は昭和40年代から、大型団地が数多く誕生したことにより急激に増加しました。</p> <p>また、県都千葉市へ8キロメートル、都心へ40キロメートルの圏内にあり、首都圏のベッドタウンとして自然と都市機能が調和しながら成長してきたまちです。</p>		

2 活動の概要

開始時期	平成30年8月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	オレンジカフェわろうべの里でのサポート
活動頻度	毎月第3水曜日 10:00～12:00
参加費	100円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	オレンジボランティア（60～80歳代の方々） 担当圏域の包括支援センター職員
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

平成30年8月、地域包括支援センターが主体となり「オレンジカフェわろうべの里」をスタートさせた。

認知症サポーターステップアップ講座を修了後、ボランティア登録された方に声をかけ、オレンジカフェでの活動にお誘いした。

回を重ねるごとに、ボランティアが増え、チームとなった。

4 活動内容

- ・カフェ開催時の会場や茶菓の準備、受付や室内への誘導などを行っている。ボランティアが特技を活かしお菓子作りを教えたり、レクリエーションの進行を行う事もある。
- ・令和5年度のアルツハイマーデーの企画として「ロバ隊長」の看板を参加者とともに作成した。可愛く親しみやすい看板が完成し、カフェのシンボルとなっている。カフェで行う企画や内容を話し合ったり、当事者への対応や当事者や家族の話の傾聴など、細やかに関わり、皆が楽しんで過ごせる居場所を目指している。

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

- ・カフェの企画や内容を一緒に考え活動することで、自分たちのカフェを運営するイメージを持って頂けるように工夫している。
- ・ボランティアミーティングでは、当事者や家族との関わり方への不安や疑問を話し合い、次の機会に生かしている。
- ・ボランティアの得意なことを担って頂き、活躍できる場、楽しめる場となるよう配慮している。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市内で年間2回、定例開催。サポーター養成講座終了後、1～2か月で実施している。

講義は2時間、市職員と包括職員で実施。内容は①四街道市の動向について、②チームオレンジとは、③当事者の思いについて、④認知症の人でも安心して暮らせるまちへ～当事者からのメッセージ～、⑤認知症の方への対応について（グループワーク）等。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・ボランティアが主体的に参加者のことを考え、カフェのあり方を「自分の思いを話せる場」として作っていくことになった。
- ・活動が定着し、一緒に活動したい仲間が増えている。
- ・ボランティアをすることで知り合い、他のサークル活動にも誘い合うなど、ボランティアの活動の輪が広がっている。

<課題>

- ・今後のチームの活動やチーム員の役割をどこまで求めるのか。

8 チームのアピールポイント

- レクリエーションや料理、お菓子作りが得意な方や手先が器用な方など多才な方が多く、活躍している。
- みんなで意見を出し合いながら、明るく楽しく活動している。
- 当事者や家族の思いを大切しながら関わっている。

9 今後の活動について

オレンジカフェ以外の活動、困っている人への個々の支援ができるチームにしたい。

印西市①

チーム名 【チームオレンジ あおぞら会】
タイトル 【 みんなで行う運動と得意を生かしたロバマスコットづくり！ 】

1 自治体情報（令和5年11月30日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
111,198人	26,697人	24.0%	123.8K㎡
印西市は こんなところ！	<p>周囲を利根川、印旛沼、手賀沼に囲まれた自然豊かな地域でありながら、JR成田線・北総線沿では市街地化が進み、子育て世代の転入も多くなっています。</p> <p>市のシンボルはコスモス。大型商業施設も複数あり、都市機能と自然の調和がとれたまちです。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和5年3月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	ちょきん運動の実施・ロバマスコットづくり
活動頻度	週1回
参加費	0円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（適宜マスコット材料費 ）
メンバー構成	認知症サポーター（ステップアップ講座修了生）
チームオレンジ コーディネーターの属性	設置なし
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

健康づくりと地域づくりを目的として住民主体で活動していた「いんざい健康ちょきん運動 あおぞら会」のメンバーは、すでに認知症の当事者を支援しながら、ともに活動を行っていたため、サポーター養成講座及びステップアップ講座を受講してもらい、チームオレンジとした。

4 活動内容

当事者と支援者がともに、週1回のいんざい健康ちょきん運動を行っている。メンバーが活動日に迎えに行ったりしながら、活動が続けられるように支援している。

また、裁縫が得意な会員が、ロバのマスコットを手作りし、アルツハイマーデーやメモリーウォークなどのイベントで配布し、認知症支援の啓発に活用されている。



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

新しく何かを始めるといよりは、これまで行ってきた活動を続け、自然な形での当事者参加支援が続けられるようお願いした。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

講師：認知症疾患医療センターの看護師

内容：認知症を理解して効果的な関わり方を知る

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

ロバのマスコットづくりを行うことが、チームオレンジとして認知症支援を広めていく役割をもっていることを感じる機会となっている。

8 チームのアピールポイント

チームオレンジになる前から、当事者とともに活動をつづけている。お互いが自然に支え合い、認知症の人がいるのが当たり前になっている。

9 今後の活動について

ロバづくりなど、これまで同様に活動を行ってもらうほか、定期的にステップアップ講座を受講してもらい、チームオレンジとしてできることを考えていく。

また、多世代が集うグループであるため、たくさんの世代が交流できる活動を考えていきたい。

印西市②

<p>チーム名 【チームオレンジ コロネード健康クラブ】</p>
<p>タイトル 【 みんなでいっしょに いんざい健康ちょきん運動！ 】</p>

1 自治体情報（令和5年11月30日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
111,198人	26,697人	24.0%	123.8K㎡
<p>印西市は こんなところ！</p>	<p>周囲を利根川、印旛沼、手賀沼に囲まれた自然豊かな地域でありながら、JR成田線・北総線沿では市街地化が進み、子育て世代の転入も多くなっています。</p> <p>市のシンボルはコスモス。大型商業施設も複数あり、都市機能と自然の調和がとれたまちです。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和5年5月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	ちょきん運動の実施
活動頻度	週1回
参加費	0円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	認知症サポーター（ステップアップ講座修了生）
チームオレンジ コーディネーターの属性	設置なし
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

健康づくりと地域づくりを目的として住民主体で活動していた「コロネード健康クラブ」のメンバーは、以前から認知症の当事者を支援しながらともに活動を行っていた。サポーター養成講座はすでに受講済みであったため、ステップアップ講座を受講してもらい、チームオレンジとした。

4 活動内容

当事者と支援者が区別なく、週1回の「いんざい健康ちょきん運動」を行っている。同じマンション内のグループであるため、メンバーが活動日に迎えに行ったりしながら、活動が続けられるように支援している。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

新しく何かを始めるというよりは、これまで行ってきたちょきん運動の活動を続け、自然な形で当事者参加支援が続けられるようお願いした。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

講師：認知症疾患医療センターの看護師
内容：認知症を理解して効果的な関わり方を知る

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

当事者ととともに活動を続けることで、認知症になっても安心して参加できる場があることを意識できるようになっている。

<課題>

当事者の参加を支援しようとしても、家族の理解が得られずうまくいかないことがあった。

理解が得られない家族への対応について、共に考え支援していく体制が必要と思われる。

8 チームのアピールポイント

チームオレンジになる前から、当事者ととともに活動をつづけている。お互いが自然に支え合い、認知症の人がいるのがあたり前の場になっている。

9 今後の活動について

今後、当事者が来られなくなることも想定されるが、現在のチーム員に認知機能低下がおきたり、認知症の方が新たに加入した時にも、これまでと同じく、ともに活動できるようにフォローアップ研修の機会を持ちながら活動していく。

白井市

チーム名 【 ー 】
タイトル 【本人・家族とともに住み慣れた地域で楽しいひとときを！】

1 自治体情報(令和5年 12 月 31 日現在)

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
62,603 人	17,718 人	28.3%	35.48K m ²
白井市は こんなところ！	<p>都心までのアクセスの良さから東京のベッドタウンとして千葉ニュータウンとともに発展してきました。</p> <p>百年以上の歴史のある「しろいの梨」が特産で、未来のジョッキーが集まる JRA 競馬学校もあるなど、自然豊かな街です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	2018 年
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他()
活動内容	①認知症カフェの開催 ②見守り訪問活動
活動頻度	①市内 2 か所 各 2 回/月開催 ②ケースに対し、2 回/月程度の訪問
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他() ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他(社会福祉協議会の補助金を申請)
メンバー構成	認知症の本人、家族、認知症パートナー(ステップアップ講座修了者)、地域包括支援センター職員など
チームオレンジ コーディネーターの属性	コーディネーター設置なし
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第 1 類型(共生志向の標準タイプ) <input type="checkbox"/> 第 2 類型(既存拠点活用タイプ) <input checked="" type="checkbox"/> 第 3 類型(拠点を設置しない個別支援型タイプ) <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本に ついて ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3 つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3 つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

認知症サポーターのうち、ステップアップ講座を受講した者が、認知症の本人とその家族、多職種の地域サポーターと協力しながら、早期からの継続支援を実施してきた経緯があり、それらの活動を「チームオレンジ」としての活動に位置づけることとした。

4 活動内容

①認知症カフェの運営

ステップアップ講座終了者が認知症カフェを運営しており、本人や家族の要望を聞きながら内容等を工夫して実施している。

②見守り訪問活動

見守り訪問活動の利用の際に、本人・家族・みまもりコーディネーター・担当地区の地域包括支援センター・訪問活動を実施するボランティアで、本人の希望を共有する機会を設けている。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

活動を実施するボランティアから、取り組みに関する相談を受けるなど、各地域の地域包括支援センターが後方支援を行う体制をとっている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

〔開催状況〕

年1回 認知症パートナー養成講座としてステップアップ講座を開催。

〔講座内容〕

- ・認知症パートナーの必要性と役割の理解
- ・認知症の人への接し方
- ・地域に必要な社会資源を考える
- ・高齢者の特徴(身体面・精神面)について学ぶ

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

〈効果〉

見守り活動を通して認知症の本人や家族と認知症パートナーとの関係性が深まり、認知症カフェへの来所につながるなど、認知症の本人の社会参加が促され、本人の楽しみや生きがいができるなどの効果があった。

〈課題〉

チームオレンジの活動の中で得られた認知症の本人や家族の意向や思いを反映した活動を広げ、施策等に反映させていく必要がある。

8 チームのアピールポイント

認知症の本人や家族の意向や思いを大切に、チームオレンジのメンバー皆が楽しめる活動を実施している。

9 今後の活動について

今後も、認知症の本人や家族の意向や思いを反映した活動を広げ、認知症パートナーとして活動する仲間が増えるよう活動の周知を行うとともに、「共生」という概念の周知や認知症の人や地域の仲間と一緒に活動する環境づくりを進めていく。

富里市

チーム名 【 にこにこ談笑会 】
タイトル 【 ご本人も参加者もみんな笑顔！！ 】

1 自治体情報（令和6年1月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
49,639人	14,616人	29.4%	53.91K m ²
富里市は こんなところ！	富里市の特産物は、すいかとにんじんです。 特産物を活かした市のイベントとして、毎年「すいかロードレース大会」を開催しています。		

2 活動の概要

開始時期	令和3年10月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	認知症カフェおよびイベント
活動頻度	月1回程度
参加費	各自飲み物代
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	本人・妻・担当地域包括支援センター職員 チームオレンジメンバー（近所に住む方） 大学講師
チームオレンジ コーディネーターの属性	
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

妻が骨折をして介護申請をした際に、夫の認知症についての相談があり、担当包括支援センターで見守り活動を開始した。

千葉県で実施している認知症の家族会への参加をきっかけに、ご夫婦で認知症カフェにご参加いただくようになった。

認知症カフェの名前もご本人が考えてくださり、愛着を持って参加いただいている。

4 活動内容

月1回認知症カフェを実施。

その他、桜の時期などには参加者みなでお花見を実施している。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

ご夫婦で参加いただいているので、ご本人の話や思いを聞くだけでなく、妻の話や思いをきちんと聞けるようスタッフが配慮して対応を実施している。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

年1～2回ステップアップ講座を開催。

講義内容は、認知症の理解と対応、グループワーク、チームオレンジについて

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

お花見を実施した際に、ご本人が参加者の写真を撮影してくれた。昔は写真が趣味ということもあり、アングルにもこだわりとても素敵な写真が撮れた。

写真の展示を実施したり、参加者に褒められたりご本人もとてもうれしそうにしていた。

本人の持っている力を発揮でき、認めてもらえる場になっている。

8 チームのアピールポイント

チーム名はご本人が名前を考えてくれ、愛着を持って参加してくれている。

チーム名をご本人が途中で忘れてしまい、別の名前になってしまったことがあったが、ご本人がそう言っているのであればと、そのままチーム名を変更して今の名前で活動している。このように、チームのみなさんが本人に寄り添ってくれるチームである。

ご本人・ご家族をはじめ参加しているメンバーがにこにこ笑顔いっぱいになるよう、今後も活動していきたい。

9 今後の活動について

ご本人のご希望を伺いながら、お花見等を企画していきたい。

匝瑳市

チーム名 【認知症と共に生きるオレンジの会】
タイトル 【多様な認知症カフェを実現！】

1 自治体情報（令和5年3月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
34,140人	12,394人	36.3%	101.48K m ²
匝瑳市は こんなところ！	<p>千葉県北東部に位置し、北は里山、南は九十九里浜に面しています。</p> <p>都心から70km圏内、成田空港まで車で30分の距離にあり、植木・苗木の産地で日本最大の栽培面積を誇ります。</p> <p>市の名前自体が特徴的で、「読めない、書けない、どこにあるかわからない」がキャッチフレーズ。</p> <p>兵庫県宍粟市と共に難読地名で市のPR活動を行っており、難読地名の“東の横綱”と言われています。</p> <p>地域包括支援センターは2か所（直営1・委託1）です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和5年4月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジカフェ（認知症カフェ）の開催 ・オレンジファームの開催 ・家族交流会への参加
活動頻度	それぞれ月1回
参加費	1回100円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（企業等からの協賛金） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	認知症と共に生きるオレンジの会会員 認知症の人とその家族、認知症サポーター、民生委員、 地域包括支援センター、認知症地域支援推進員
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター職員

<p>チームオレンジの類型 ※1</p>	<p><input type="checkbox"/>第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/>第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/>第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/>その他</p>
<p>チームオレンジ三つの基本 について ※2</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/>3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている</p>

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

毎月1回開催していたオレンジカフェ（認知症カフェ）がコロナ渦で開催困難となり、主催するボランティア団体（構成員の多くが認知症サポーター）と担当課でこれからの活動を考えた際、「屋外での認知症カフェ」「野菜の収穫」といった意見が聞かれ、実現に向けて検討を開始。

「オレンジファーム」と名付けた“認知症カフェ+家族交流・相談の場”が始動。本格的な実施に向け、ステップアップ講座を受講していただき、チームオレンジとして位置づけた。オレンジカフェ、家族交流会の活動も再開している。

4 活動内容

〈オレンジカフェ〉
 毎月1回のカフェ運営。コーヒーやお茶、茶菓子の提供をしている。
 対話中心だが、会の最後の方では全員で季節の歌を歌唱し、大漁節を踊って閉会。
 対話の時間帯に参加者が自由に取り組みめるレク（折り紙、お手玉など）も用意している。



〈オレンジファーム〉
 毎月1回。開催日は作物の生育状況を見て決めている。時期によって、種まき・苗植え・収穫・草取り等を行う。収穫した作物は、参加者で持ち帰る。育てたい作物は、参加者にも意見を聞きながら決めている。



〈家族交流会〉
 オレンジカフェと同日に、同会場別室にて開催している市主催の家族交流会に参加し、介護者の話の傾聴や悩みの助言、お茶やコーヒー、茶菓子の提供などを行う。

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・活動ポスターを新たに作成し、ボランティアメンバー自らが、それぞれ馴染みの場所へ周知に出向くようにした。
- ・活動についての相談や悩みについて、担当課／地域包括支援センターが随時相談を受ける体制を取っている。
- ・ステップアップ講座の受講者にオレンジカフェやオレンジファームへの参加意向を確認し、希望者が活動に結び付けられるよう、工夫している。
- ・オレンジファーム開催前には、屋外活動での高齢者への留意点を学ぶ機会を設けた。また、毎回開催前にミーティングを行い、参加者毎に支援者を決めるなど、安全に配慮している。



6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

年1回、市内公共施設の会議室等で開催。認知症地域支援推進員／千葉県認知症コーディネーター（市職員や地域包括支援センター、市内介護事業所に所属）で内容を検討し、当日もスタッフとして参加している。

〈講座内容〉 所要時間 3時間

1. 市の高齢者の現状と地域包括ケアシステムについて
2. 認知症の理解
3. 認知症の人とのコミュニケーション実践
4. 地域活動紹介
5. チームオレンジについて



7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

〈効果〉

- ・参加者同士がつながり、新たな出会いの場になっている。
- ・地域包括支援センターやケアマネジャーから参加に関する問い合わせが来るようになり、少しずつ周知されつつある。
- ・認知症の人本人が参加を楽しみにしてくれている。

〈課題〉

- ・オレンジカフェ、オレンジファームともに1カ所ずつであり、移動手段がなく参加できないとの声がある。
- ・認知症の人本人の参加が少ない。継続参加につながらない。

8 チームのアピールポイント

- ・誰もが楽しく過ごせる場づくりを目指している。
- ・笑顔が多く、活気ある雰囲気を作り出すメンバー。
- ・主催団体である認知症と共に生きるオレンジの会は、認知症ジュニアサポーター養成講座にて寸劇を披露するなど、認知症支援に幅広く携わっている。

9 今後の活動について

- ・より多くの人に参加できる場になるよう、周知啓発方法を工夫していきたい。
- ・定期的に自分たちの活動を振り返る機会を持ち、参加者の定着やより居心地の良い場の提供を目指していきたい。

香取市

チーム名 【 香取オレンジ会 】
タイトル 【できることを自発的に行える活動を支援】

1 自治体情報（令和5年4月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
71,332人	27,126人	38.02%	262.3K㎡
香取市は こんなところ！	千葉県北東部に位置し、北総台地の一角を占めています。 東国三社の一つ「香取神宮」日本初の実測日本地図を作成した偉人「伊能忠敬」が有名です。		

2 活動の概要

開始時期	令和4年
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	ステップアップ研修会の開催 認知症カフェへの運営協力 アルツハイマー月間の周知活動について 各地域サロン等での認知症予防や見守り
活動頻度	各自所属している団体等で活動を継続
参加費	0円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（所属団体の財源）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症サポーター ・ キャラバンメイト ・ 認知症地域支援推進員（地域包括支援センター職員） ・ 認知症初期集中支援チーム員 ・ 認知症家族会 ・ 認知症カフェ ・ グループホーム職員 ・ 小多機職員
チームオレンジ コーディネーターの属性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症地域支援推進員（地域包括支援センター職員）
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

R4 ステップアップ研修会を開催し、チームオレンジを結成した。今年度は対象者を広げて研修会を開催、チームオレンジについて周知し、活動を呼びかけた。

4 活動内容

- ・毎月1回実施しているおれんじ喫茶への運営協力。
- ・アルツハイマー月間での取り組み
展示や子供向けイベント、おれんじ喫茶特別イベントを実施。
- ・各地域サロン等では、通年実施している認知症予防や見守り等の取り組みに加え、アルツハイマー月間で各々取り組めることを行った。

(アルツハイマー月間：Kids 向けイベント 楽しみながら認知症を知ろう)



(思いやりの木)



(紙芝居)



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

アルツハイマー月間のイベントでは、新しく開設した複合施設の施設管理職員や図書館職員が認知症サポーターとなり、また、社会福祉協議会、地域包括支援センター協力のもと、複合施設全体で一体的な事業を実施することができた。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

今年度6月にステップアップ研修会を開催。

内容：香取オレンジ会について

オレンジ会の活動について

グループワーク「アルツハイマー月間の周知活動について」

どこシル伝言板の紹介

研修会で、情報交換を行い、アルツハイマー月間での取り組みについて話合った。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

オレンジ会の活動に広がりが見られ、今後の活動に繋げることができた。

認知症に対して関心、理解が広まった。

<課題>

オレンジ会の活動について、認知症サポーターの理解がまだまだ不十分であると感じた。

今後、どのように理解を深めて活動に繋げていくのか、自発的に意欲をもって取り組んでもらえるようにするためにも体制づくりを行う必要がある。

8 チームのアピールポイント

活動方法は様々なので、できることを自発的に意欲をもって活動できるように支援していく。

9 今後の活動について

認知症サポーターが、郵便局職員、小中高校の児童生徒にも増えているため、オレンジ会の活動に繋がるように体制を整えていきたい。

山武市

<p>チーム名 【 さんむオレンジチーム (SOT) ^{そつと} 】</p>
<p>タイトル 【認知症になっても安心して暮らせる『さんむ』を目指して 一緒に考え楽しむチーム】</p>

1 自治体情報（令和6年2月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
48,251人	18,049人	37.0%	146.77K m ²
山武市は こんなところ！	<p>海と緑に囲まれており、市の南には九十九里浜を有し、夏季にはマリンスポーツを楽しめます。</p> <p>市の中心部から北西部には、田園風景が広がる平野と森林の木々が生い茂る自然豊かな場所です。</p> <p>千葉県の中でネギの産出額は県内1位、他にも人参、里芋、ブロッコリー、いちごが県内3位となっています。（令和元年度）</p> <p>山武市のマスコットキャラクター「SUN ムシくん」は、サンサンと輝く太陽の明るさと大空に向かって飛び立つてんとう虫と名産いちごの形をしており、可愛らしいため子ども達に人気があります。</p>		

2 活動の概要



開始時期	令和4年9月
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	チームオレンジとして活動するための勉強会や市の認知症啓発活動をチームオレンジコーディネーターと共に行っている。
活動頻度	月1回
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（活動に必要な物品等は市が購入） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ステップアップ講座を修了した市民 ・市役所 直営地域包括支援センター職員 ・委託地域包括支援センター職員 ・社会福祉協議会職員

チームオレンジ コーディネーターの属性	直営・地域包括支援センター、社会福祉協議会
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和3年度認知症サポーターステップアップ講座受講者と有志の人が集まり、令和4年度から毎月勉強会を行い、チームオレンジとなる活動について話しあっていった。
令和4年9月チーム名を「さんむオレンジチーム」として結成した。

4 活動内容

- ・月1回定期的に勉強会や活動の企画・準備を行う。
 - ・アルツハイマー月間に市役所玄関ホールで認知症啓発事業の掲示を行う。
 - ・市主催の認知症に関する映画上映会の協力とさんむオレンジチームのアピール、認知症啓発を行う。
 - ・認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座で、認知症予防エクササイズ「スクエアステップ」実施
- 


5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

メンバー同士が気軽に話しができる雰囲気づくり。
自発的に意見を出し、取り組むことができるよう心掛けた。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

今年度認知症サポーター養成講座を受講した方の多くがステップアップ講座に参加し、参加者全員がチームオレンジに登録した。
講座内容：講話（講座の目的・チームオレンジとは・認知症の基礎知識・認知症の人を理解するための基礎知識）、若年性認知症の方のYouTube 動画視聴、グループトーク「地域での活動について」、いちご体操（市介護予防体操）、スクエアステップ

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

定期的に顔を合わせることで信頼関係が深まった。積極的に意見や考えを出せるようになり、活動内容の幅が広がった。

<課題>

- ・令和5年度の活動は、市が開催する認知症啓発活動をチームオレンジコーディネーターと共に実施。チームメンバーからリーダーの選出は敬遠され、自主活動に至らない。
- ・今年度チームオレンジに加わったメンバーのフォローや活動の場の拡大について。


8 チームのアピールポイント

- ・メンバーに若年性認知症の当事者や認知症の親を介護している人がおり、対応方法や悩みを共感したり、助言し合える関係性が構築されている。
- ・スクエアステップ講師の資格をもっているメンバーが数人いる。

9 今後の活動について

- ・チームオレンジについて認識を深め、チームメンバーの自主的な活動を促していく。
- ・やる気のある新規メンバーが多数参加したので、やってみたいことを自主的に提案してもらい、実現に向けてすすめていく。

大網白里市

チーム名 【チームオレンジ大網白里（仮）  】
タイトル 【 あんとんねえさ～ 】 ※チームの活動や特徴を一言でまとめたもの

1 自治体情報（令和6年1月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
48,180人	16,528人	34.3%	58.08K㎡
大網白里市は こんなところ！	<p>東京都心から50～60キロメートル圏域に位置し九十九里平野のほぼ中央にあります。</p> <p>西は緑豊かな丘陵部、東は白砂青松の海岸部という特色ある豊かな自然を持つ風土を有しています。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和5年2月
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	認知症カフェの運営、見守り・傾聴訪問等
活動頻度	月1回（見守り訪問はチーム員の都合による）
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（必要な物品については市で購入） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーターステップアップ講座受講者 ・認知症当事者
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター職員（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和4年度に認知症サポーターステップアップ講座を開催し、講座終了後チームオレンジへの参加希望者を募り結成した。

4 活動内容

- ・あったかスペースモクセイ（認知症カフェ）の運営、内容（イベント）の企画
- ・認知症高齢者宅への訪問、話し相手等
- ・世界アルツハイマー月間の展示物の製作



(写真左) あったかスペースモクセイの様子
まだ OPEN してから間もないですが、楽しく
運営しています☆

(写真右) 世界アルツハイマー月間の取組
認知症の方やそのご家族、チームメンバ
ーや市職員を含め、こんな市になってい
るといいなどの願いの紹介や啓発物を配
布しました☆



5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

チームオレンジを立ち上げた当時、市内に認知症カフェがなかったため、あったかスペースモクセイを立ち上げ活動拠点とした。

当事者も運営に参加し始め、チーム員が主体性をもって活動できるよう配慮している。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

開催状況：認知症サポーター養成講座受講者を対象に年1回の頻度で開催。

講座内容：認知症の理解を深める、認知症の人とのコミュニケーション・対応方法（パーソンセンタードケア、グループワーク）、チームオレンジの紹介、市の現状と認知症施策の説明

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・あったかスペースモクセイ終了後、振り返りや今後の企画について話し合うことでチームに一体感が出てきている。
- ・地域の中でチームオレンジが認識されるようになってきている。

<課題>

- ・あったかスペースモクセイ以外の活動の充実。

8 チームのアピールポイント

ステップアップ講座を受講したメンバーには様々な立場の方がおり、それぞれの多様な考え方をチーム内で共有しその意見を活動にいかしている。

チームの雰囲気やメンバー間の仲も良く和気あいあいと運営している。

9 今後の活動について

- ・認知症の本人や家族等の参加者がつながりを持ち「ここに来てよかった」とあったかい気持ちになれるカフェ(居場所)にしていきたい。
- ・毎年チーム員が増員となる見込みのため、リーダー等の役割を決めていく。

芝山町

チーム名 【チームしばっこ】
タイトル 【 みんなの居場所「しばっこカフェ」 】

1 自治体情報（令和5年12月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
6,806人	2,443人	35.89%	43.24K m ²
芝山町は こんなところ！	<p>千葉県北東部に位置し、日本の玄関である成田国際空港に隣接しているため、至るところで飛行機の姿が目に入り、おのずと空を見上げてしまいます。</p> <p>町の面積の大半を農地が占め、四季折々の野菜や花々など自然豊かであり、埴輪をはじめ数多くの遺物が発掘され古代の趣を感じられる町です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和4年7月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	認知症カフェの運営
活動頻度	毎月1回
参加費	100円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーターステップアップ講座修了者 ・居宅介護支援事業所のケアマネジャー ・地域包括支援センター職員（認知症地域支援推進員）
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター職員（認知症地域支援推進員）が兼ねている。
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

- ・認知症サポーター受講者の中から、カフェでボランティアとして活動してくれる方を集めた。数名の方がボランティアとして活動してくれることになり、認知症の方の居場所づくり、認知症の方を介護する家族の支えとなるように地域の方々が集まれる場所として、平成31年4月 認知症カフェ「しばっこカフェ」を開設した。
- ・認知症サポーター養成講座を受講したカフェのボランティアに、認知症サポーターステップアップ講座を受講してもらい、令和4年6月「チームしばっこ」が結成された。

4 活動内容

- ・毎月1回の認知症カフェの運営、受付をし、茶菓子を出している。対話をメインとし、折り紙、トランプ、脳トレプリントなど参加者がやりたいことに取り組んでもらう。カフェの終わり頃には、全員で笑いヨガや歌を歌う。
- ・近所の方に認知症カフェへの参加の声掛け



↑カフェの看板



↑笑いヨガの様子

5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・活動意欲が低下しないよう、定期的にメンバー同士で話し合いの機会を持ち気持ちを盛り立てている。
- ・カフェ参加者が1人にならないように、メンバーが声をかけている。
- ・3～4か月に1回、認知症カフェの日程を広報に掲載している。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

3回に分けて講座を実施予定。

(チームオレンジコーディネーターの講義1時間、町内グループホームの実習1時間)

- ・1回目(講義)：認知症についての基礎知識の復習。認知症の人との接し方。
- ・2回目(施設実習)：グループホーム利用者との交流を図る。
職員から認知症の方への接し方等について伺う。
- ・3回目(講義)：チームオレンジ、町の認知症施策について説明。
施設実習の感想、まとめ。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・チームオレンジのメンバーは、カフェの参加者に楽しく過ごせるように声かけを行い、本人のやりたいことができるように支援してくれている。
- ・チームオレンジメンバー自身の生きがいにもなっている。
- ・認知症と診断がついていなくても、認知症疑いの方や MCI の方などがカフェで把握できている。

<課題>

- ・活動が月1回のみとなっている。
- ・地域包括支援センターが運営主体となっているので、チームしばっこのメンバーが主体的に活動できるように体制整備する。
- ・男性のカフェ参加者が少ない。

8 チームのアピールポイント

- ・「地域のために貢献したい」と意欲あふれるチーム。カフェではチーム員の見守りのもと、自分のやりたいことに取り組めるので、楽しいひと時が過ごせる。
- ・チーム員全員、オレンジ色のエプロンを着用している。同じものを身につけているので、一目でチームメンバーが分かる。

9 今後の活動について

住民だけでなく職域からの認知症サポーターを増やし、認知症に理解のある人を増やしていきたい。

担当部署

千葉県健康福祉部 高齢者福祉課 認知症対策推進班

住 所 〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1番1号

電 話 042-223-2237

ホームページ <https://www.pref.chiba.lg.jp/koufuku/shien/ninchishou/supporter-caravan.html>